

2022年度

助産師教育研修研究センター事業報告書

公益社団法人 全国助産師教育協議会  
助産師教育研修研究センター



## 目次

I. はじめに .....	4
II. 助産師教育研修研究センター事業概要 .....	5
1. 目的 .....	5
2. 事業内容 .....	5
III. 各事業の計画と実施 .....	5
1. ファーストステージ研修 .....	5
1) 目的 .....	5
2) 受講生 .....	5
3) 2022 年度開講科目実績 .....	6
(1) 受講生の属性 .....	6
(2) 担当講師 .....	7
4) 評価 .....	7
(1) 受講者研修終了後アンケート結果 .....	7
5) 公開講座 .....	10
2. セカンドステージ研修 .....	13
1) 概要 .....	13
2) 受講生 .....	14
3) 成果（アクションプランのテーマ） .....	15

(1) 1G:助産師のための開業・起業教育コース.....	15
(2) 2G:周産期標準模擬産婦養成のための「全国助産師教育協議会周産期標準模 擬産婦養成講座」を開催する.....	17
4) 評価.....	20
(1) 受講者研修終了後アンケート結果.....	20
3. 特定分野(助産)における保健師助産師看護師実習指導者講習会.....	26
1) 概要.....	26
(1) 令和4年度 募集.....	26
(2) 実施方法.....	26
(3) 受講生の状況.....	26
2) 2022年度開講科目実績.....	27
3) 評価.....	28
4. e-learning 研修.....	36
1) コンテンツ.....	36
2) 2022年度配信数.....	36
3) 評価.....	36
5. 助産実習のための非常勤助手(非常勤実習担当教員)研修需要に関する調査.....	38
IV. センター事業における CLoCMiP®レベルⅢ認証申請のための研修一覧.....	47



## I. はじめに

新型コロナウイルス感染症は(COVID-19)全世界に多くの弊害をもたらし、まだその収束は見えないが、日常生活においては、国民一人一人が健康で衛生的な生活を確保する取り組みを進めている。

助産師教育研修研究センターにおいても 2022 年度の研修事業は対面教育が行えず、Zoom によるオンライン教育を実施した。

主たる研修事業である、1)ファーストステージ研修は全科目履修生が少なく、残念であるが助産論、助産師教育方法論の教科目のみ実施し(6/11日~9/24日)、研修を中止した。

2)セカンドステージ研修は、助産師教育課程概論を受講生 2名とファシリテーター2名の参加で研修(7/10日~9/4日)を行い、時代性を考慮したアクションプランを報告した。

3)特定分野(助産)保健師助産師看護師実習指導者講習会は 41名の受講生でオンライン教育(8/20日~9/17日)を開催した。

コロナ禍に伴い大学教育や助産師教育でもオンライン教育が一般化したこと、アドバンス助産師の教育区分がなくなったこと等にも関連し、当センター研修の今後の在り方を検討した。

(1)新しい教育内容を強化し、科目全体の再体系化を図る(2)履修者にとって履修しやすいオンデマンド配信と e-learning の活用 (3)研修日程を受講生の受講しやすさから検討 (4)価格の検討 (5)教育実習の継続などが挙げられた。

また新たに「助産実習に携わる非常勤教員向けの研修小委員会」を立ち上げ、次世代教員の育成を目指している。対面教育の教育効果は上げられなかったが、オンライン教育の活用により新しい教育の視点を得て、今後の助産師教育の質の担保を図っていく必要性を考える 1年間であった。

本年度も教育事業に携わって下さいました委員各位、ご指導下さいました講師の先生方、教育機関会員の皆様方に衷心より厚く御礼申し上げます。

2023年5月 助産師教育研修研究センター長 平澤美恵子

## II. 助産師教育研修研究センター事業概要

### 1. 目的

公益社団法人全国助産師教育協議会 助産師教育研修研究センター（以下、本センター）は、助産師教育に携わる者が、高度な助産実践の教育力を修得・維持し、助産師教育の質の向上に生涯学習の場として資することを目的とする。

### 2. 事業内容

- ① 助産師教育に関わる教員を対象とした研修  
（教育学に関する内容、助産師教育課程、助産師教育の基礎に関する内容、助産（論）、助産師教育論・教育制度、助産師教育方法及び評価、学校運営等）
- ② 助産師教育に関わる臨床指導者を対象とした研修  
（教育学に関する内容、助産師教育課程、助産師教育の基礎に関する内容、助産学（論）、助産師教育論・教育制度、助産師教育方法及び評価、臨床指導論、指導技術のスキルアップ等）
- ③ 研究機関に属さない助産教員を対象に、助産研究能力の向上を目指した支援

## III. 各事業の計画と実施

### 1. ファーストステージ研修

#### 1) 目的

助産師教育に携わる教員や臨地実習指導者が、助産実践力を基盤にし、助産観と教育観に裏付けられた教育力を養い、ひいては助産師教育全体の質の向上を図ることができるようになる。

#### 2) 受講生

2022 年度「助産師教育ファーストステージ研修」は、大学、短期大学、専門学校、臨地で助産師教育に携わっている者が受講した。

2) 2022 年度開講科目実績

(1) 受講生の属性

所属別		助産論	助産論演習	助産師教育方法論
教育課程	大学院	1		2
	大学・短期大学の専攻科			
	大学	1	1	2
	専門学校			
臨床指導者				
その他				
計		2	1	4

(2) 担当講師

科目	氏名	所属
助産論 1 単位 (30 時間) 助産論演習 1 単位 (30 時間)	平澤 美恵子	助産師教育研修研究センター
	片岡 弥恵子	聖路加国際大学大学院
	井本 寛子	日本看護協会
	安達 久美子	東京都立大学
	大石 時子	高崎健康福祉大学大学院
助産師教育方法論 2 単位 (60 時間)	渡邊 美和	文部科学省
	菊地 沙織	厚生労働省
	高橋 弘子	元北海道科学大学
	伊藤美栄	国立病院機構岡山医療センター附属 岡山看護助産学校
	島田智織	茨城県立医療大学
	村上 明美	神奈川県立保健福祉大学
	藤井 ひろみ	大手前大学
	白石 三恵	大阪大学大学院

3) 評価

(1) 受講者研修終了後アンケート結果

助産論・助産論演習

1. 各講師への希望やご意見を具体的にご記入ください。

- ・どの講義も理論や数多くの文献について具体的に説明いただき、理解を深めることができました。
- ・第一線の先生方のご講義を聞いて知見が広がりました。ありがとうございました。

2. オンライン研修についてのご意見・ご要望をご記入ください。

- ・時間のある時に視聴できるのが良いと思いました。
- ・集合研修であれば家庭の状況等でとても参加できませんでしたのでどこでも学べる体制がありがたいです。後から見返して業務に活かしたいので録画し後日再度アクセスできましたら尚ありがたいです。

3. その他お気付きの点やご意見をご記入ください。

- ・貴重なご講義をありがとうございました

【助産師教育方法論受講後アンケート】

1. 研修の開催期間(8/6~9/24)についてお伺いいたします。

- 期間が長い 2名(50%)
- 期間が短い 1名(25%)
- 丁度いい 1名(25%) (4件の回答)

2. 「期間が長い」「期間が短い」を選択された方にお伺いします。どのくらいの期間が適切ですか?また、1日の講義時間はどのくらいが適切ですか。

- ・間を開いて1か月以上かかるより、集中講義の方がありがたいです。
- ・期間だけを考えると長いのですが、1日3コマの日がある、土日2日連続で入っている週末もある、内容が濃い、e-learningの部分もあることを考えると、これ以上長くならない工夫をしていただけていると思いました。1日3コマが限界かと思います。
- ・3-4ヶ月かけて半日ずつの開催だと助かりました。

3. 講義内容についてお伺いします。

- 理解できた 1名(25%)
- どちらかと言えば理解できた 3名(75%)
- どちらかと言えば理解できなかった 0名(0%)
- 理解できなかった 0名(0%) (4件の回答)

4. 今年度はすべてオンライン研修でしたが、オンラインで演習を行う事について、ご意見や感想がありましたらお書きください。

- ・オンラインでも十分でした。対面ですともっと細かい話ができただのかもしれませんが、集合研修は各地からの移動を考えると難しいと思います。
- ・遠方でも職場や自宅から参加できるのはとてもありがたかったです。グループワークやペアワークは、周囲に気を取られることなくお話できたのがよかったです。しかし、休憩時間に他の受講生と交流したり、講師に話かけたりできないのは残念だったと思います。
- ・対面だと距離や家庭の都合でとても参加できなかったのがありがたかったです。対面だとまた違った達成感があったとは思いますが、居住地や家庭の事情に左右されず学ぶ機会があることは子育て世帯として助かります。大学から受講費や交通費が出るわけではないので、対面の場合、金銭面でも厳しかったと思います。今後対面研修ができる状況になってもハイブリット開催などで学びの場があれば嬉しいです。
- ・遠方在住のため、オンラインだからこそ受講でき、大変助かりました。個人ワークでも先生がチャットやブレイクアウトルームでフォローしてくださったので、困ることはありませんでした。一度だけ集まる機会があるとさらに楽しいと思いました。

5. 助産師教育方法論の講師にご意見・ご感想がありましたらご記入ください。

- ・貴重なご講義、計画書へのアドバイスをありがとうございました。
- ・先生方には、とても熱心に丁寧にご指導いただき、感謝しています。講義で教えていただいたことについて、どうやったら取り入れることができそうか同僚と話し合うこともあります。より効果的な方法について、以前より積極的に建設的に考えられるようになったと思います。ありがとうございました。先生方の熱意も忘れないようにしたいと思います。
- ・第一線の先生方から濃密なご講義を賜り誠にありがとうございました。自身の助産観が刺激され、早く学生と関わりこの学びを還元したいという気持ちでいます。
- ・講師の先生の文献紹介をはじめ、お話しの内容の広さ、深さに圧倒されました。「産院覚え書」を恥ずかしながら全く読んだことがなかったので、読んで、さらに教材としてどうかを考えることができ大変勉強になりました。オンデマンドの助産教育の歴史のところが私にはとても楽しく、先生もとても楽しそうにお話しされていたことで、助産師として仲間意識を抱きました。
- ・臨床推論も OSCE もほとんど理解していなかったのですが、この講義をきっかけにまず臨床推論の勉強を始めることができました。講義で OSCE の実践を見せていただき、とにかく意図的に綿密に準備することが必要だということがわかりました。また、学生同士の評価が効果的だという話と、動画内の学生さんがとても生き生きと楽しそうに演習していることが印象的で環境づくりと、そのための自分の人間性のようなところも考える必要があると思いました。
- ・講義の中には、理論がとても難しく、最初少し誤って理解しそうなりましたが、講義の録画（質疑応答含む）と資料にご紹介いただいた書籍を少し読んで、おそらく理解の方向性は修正できたように思います。私はずっと、学生をチームの仲間として受け入れられないような臨床の態度が良くないと思ってましたが、正統的周辺参加論がその根拠を示してくれるように思いました。勉強を続けたいと思います。
- ・教育三観と指導案の演習は、本当に勉強になりました。正規の研修を受けることなく臨床指導者をしたのちに教員 1 年生となった自分にとって、教育三観・指導目標について掘り下げて考え、フィードバックをいただける機会は本当にありがたかったです。課題は大変でしたが、学生のことを想像しながら書くのはとても楽しかったですし、先生方の助産観、教育観をお話しいただいたのもとても勉強になりました（助産師仲間として面白かったのもあります）。これから教員をやっていくにあたって、まずここを考える必要がある、という土台を教えていただいたと思います。ありがとうございました。

#### 4) 公開講座

2022年度 全国助産師教育協議会  
ファーストステージ研修 

# 公開講座

Zoomによるオンライン講義

メインテーマ「助産師教育と看護行政」

これからの助産師教育や助産師活動の発展の方略を考えるため、現在の看護行政の動向を学びませんか。

本講座はCLOCMiPの更新要件「選択研修1.5h」に該当します。

**募集人数** 20名(先着順)  
**受講料** 1コマ2,200円(税込)  
**申込み期限** 2022年6月12日(日)まで  
**申込み方法** 下記Googleフォームからお申込みください。  
<https://forms.gle/P8janZiqnshA4SEo9>



★HPからの申し込みと、受講料のお振込みを持って申し込み完了と致します。  
☆振込口座番号：三菱UFJ銀行 浅草橋支店 普通預金 0109607  
名義人：公益社団法人全国助産師教育協議会 研究センター  
★受講証はメール添付でお送りします。

日程	テーマ	講師
2022年 6月25日(土) 13:00 ~14:30	看護行政の最近の動向	厚生労働省 医政局 看護課 菊地沙織氏
2022年 7月16日(土) 13:00 ~14:30	行政が助産師に期待する役割 と機能	文部科学省 高等教育局 渡邊 美和氏

お問い合わせ  
全国助産師教育協議会事務局(火・木 事務局在室)  
TEL: 03-6384-2075  
mail: zenjomid.1965@car.ocn.ne.jp

2022年度 全国助産師教育協議会

ファーストステージ研修助産師教育方法論

# 公開講座

オンライン開催

募集人員 高橋先生20名程度、伊藤先生20名以上可

受講料 高橋弘子先生:6コマ11,000円  
(eラーニングの事前学習3コマ込)

伊藤美栄先生:5コマ11,000円

ご参加お待ちしております!

申込み期限 2022年7月20日(月)

申込み方法 こちらの申し込みフォームからお申込み下さい。

<https://forms.gle/nw1BgwMjJC6VdjmE7>



★HPからの申し込みと、受講料のお振込みをもって申し込み完了と致します。

★修了証はメール添付で発行いたします。

☆振込口座番号:三菱UFJ銀行 浅草橋支店 普通預金 0109607

名義人:公益社団法人全国助産師教育協議会 研究センター

★本講座はCLoCMiPの更新要件「選択研修」に該当します。

日程	テーマ	講師
2022年8月6日(土) までのeラーニング による事前学習	eラーニング事前学習 90分3コマ 助産師教育における教授・学習活動の成立 ①②③	元 北海道科学大学 高橋 弘子先生
2022年 8月6日(土) 10:30~12:00 13:00~14:30 15:00~16:30	オンライン講義 助産師教育における教授学習活動の成立 助産師教育における教材と教材研究  【合計9h】	
2022年 8月13日(土) 10:30~12:00 13:00~14:30 15:00~16:30 8月14日(日) 10:30~12:00 13:00~14:30	オンライン講義5コマ  授業評価の考え方 (OSCEの理論と実際を含む) 【7.5h】	国立病院機構 岡山医療センター 附属岡山看護助産 学校 伊藤 美栄先生

お問い合わせ

全国助産師教育協議会事務局(火・木・事務局在室)

TEL: 03-6384-2075 mail: zenjomid.1965@car.ocn.ne.jp

## 2022年度 助産師教育研修研究センター

# 公開講座 (オンライン研修)

2022年度、助産師教育研修研究センターの  
公開講座(特別講義)を開催します。

2022年 秋の叙勲(旭日中綬章)を授章された近藤潤子先生に、  
「助産師教育の本質と今後のありかた」のご講演をお願いしました。  
出生率減少の中で助産師活動のあるべき姿を考える貴重な機会です。

ふるってご参加ください。

※本講座はCLOCMIP®の更新要件「選択研修」に該当します

日時	講義テーマ
2023年 3月12日(日) 13:00~14:30 オンライン	<b>助産師教育の本質と今日的課題 学習環境の理解と評価の視点</b>  天使大学理事・天使大学客員教授 近藤 潤子 先生 2022年 秋 叙勲 旭日中綬章

**受講料** | コマ2,200円でのお申込みとなります。  
(受講証は受講料に含まれます。)

**申し込み** | <https://forms.gle/JtCDbE7mQCkb4FbL7> から申し込み  
定員 500名まで  
お申込み・受講料 お振込み締切り日 2023年 3月6日(月)  
受講料は3月6日までに三菱UFJ銀行 浅草橋支店 普通口座 0109607にお振込み  
下さい。

**場所** | 全国助産師教育協議会事務局

お問い合わせ 全国助産師教育協議会  
東京都新宿区四谷本塩町7-9 四谷ニューマンション203  
☎ 03(6384)2075 (火・木 在室)  
✉ zenjomid.1965@car.ocn.ne.jp

## 2. セカンドステージ研修

### 1) 概要

目的:セカンドステージ研修は,助産師教育に携わる教員が,助産観と教育観に裏付けられた教育力を発展させ,ひいては助産師教育全体の質の向上を図ることを目的とした。

科目名:助産師教育課程概論

目標:助産師教育に求められるディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーを踏まえて現状の課題を確認し、将来を見据えたアクションプランのアプローチを目指す。特に今年度は助産師教育における将来ビジョン 2021 に基づくアクションプランの作成を行う。

方法:講義(20%),演習(80%)。問題意識に基づくオンラインでのグループワークを主とした。

日程およびスケジュール

- 1 回目:7月10日(日) オンライン 講義、事前課題報告、ディスカッション
- 2 回目:9月4日(日) オンライン 中間報告、ディスカッション
- 3 回目:11月6日(日) 対面 2グループの最終報告、ディスカッション、修了式  
12月6日(火) オンライン 1グループの最終報告、ディスカッション、修了式

2022年7月10日(日)			
時間		内容	担当
10:00	10分	あいさつ	平澤先生
10:10	10分	研修ガイダンス 研修担当者, 事務部門紹介 研修内容概説 研修日程 研修方法	岡山
10:20	5分	本日のスケジュール説明	岡山
10:25	25分	自己紹介と事前課題報告	受講生
10:50	5分	講師紹介	藤井先生
10:55	90分	講義 (公開講座) 「助産師教育における将来ビジョン2021 持続可能な助産師教育の実現に向けて、今必要なこと」 神奈川県立保健福祉大学 村上明美先生	村上先生
12:25	50分	休憩	
13:15	20分	演習方法およびアクションプラン例の説明	岡山 上田先生 沼澤先生
13:35	50分	グループワーク開始  ①履修生2名でのディスカッション(20分)  ②グループ毎のディスカッション(30分)	1グループ 受講生:金澤悠喜さん(筑波大学医学医療系) ファシリテーター:上田先生 担当講師:藤井先生  2グループ 受講生:山崎康枝さん(佐賀県医療センター好生館看護学院 助産学科) ファシリテーター:沼澤先生 担当講師:岡山
14:25	10分	グループワーク進捗報告(終了時間告知)	受講生
14:35	30分	課題抽出, 打ち合わせ日程調整, 散会	岡山

2022年9月4日（日）			
時間		内容	担当
10:00	5分	あいさつ	平澤先生
10:05	5分	本日のスケジュール説明	藤井先生
10:10	60分	アクションプラン中間報告とディスカッション	受講生
		1グループ（30分）  2グループ（30分）	1グループ 受講生：金澤悠喜さん（筑波大学医学医療系） ファシリテーター：上田先生 担当講師：藤井先生  2グループ 受講生：山崎康枝さん（佐賀県医療センター好生館看護学院 助産学科） ファシリテーター：沼澤先生 担当講師：岡山
11:10	30分	グループワーク	受講生
		①履修生2名でのディスカッション（15分）  ②グループ毎のディスカッション（15分）	
11:40	15分	グループワーク進捗報告（終了時間告知）	受講生
11:55	5分	課題抽出，打ち合わせ日程調整，散会	藤井先生

2022年11月6日（日）			
時間		内容	担当
9:30	5分	あいさつ 本日のスケジュール説明	岡山
9:35	45分	アクションプラン最終報告とディスカッション	藤井先生
		2グループ（45分）	2グループ 受講生：山崎康枝さん（佐賀県医療センター好生館看護学院 助産学科） ファシリテーター：沼澤先生 担当講師：岡山
10:20	5分	講評 修了式 写真撮影	平澤先生
10:25	5分	報告書作成について，散会	岡山

2022年12月6日（火）			
時間		内容	担当
17:00	5分	あいさつ 本日のスケジュール説明	岡山
17:05	45分	アクションプラン最終報告とディスカッション	岡山
		1グループ（45分）	1グループ 受講生：金澤悠喜さん（筑波大学医学医療系） ファシリテーター：上田先生 担当講師：藤井先生
17:50	5分	講評 修了式 写真撮影	平澤先生
17:55	5分	報告書作成について，散会	岡山

## 2) 受講生

募集人員：12名

参加者：2名

### 3) 成果（アクションプランのテーマ）

#### (1) IG:助産師のための開業・起業教育コース

## 2022 年度セカンドステージ「助産師教育課程概論」報告書

筑波大学医学医療系 助教 金澤悠喜

### 1 助産師教育課程概論の目的・科目概要

#### 1.1 目的

セカンドステージ研修は、助産師教育に携わる教員が、助産観と教育観に裏付けられた教育力を発展させ、ひいては助産師教育全体の質の向上を図ることを目的としています。

#### 1.2 科目概要

目標：将来の助産師教育を見据えた発展的なカリキュラム開発ができる。

内容：助産師教育に求められるディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーを踏まえて現状の課題を確認し、将来を見据えたアクションプランのアプローチを目指す。特に今年度は助産師教育における将来ビジョン 2021 に基づくアクションプランの作成を行う。

### 2 注目したアクションプラン

#### 2.1 ビジョン 2

助産学担当教員の教育力の向上／保証、および臨地実習指導者の指導力の向上を図る。

（詳細）全国助産師教育協議会が作成した「望ましい助産師教育コア・カリキュラム 2020 年版」や「助産師教員キャリアラダー」を踏まえつつ、助産学担当教員が、時流に応じて社会に求められる助産師教育力を修得できるよう、体系的・系統的に研修内容を精査し、企画・運営する必要がある。さらに、運営に際しては、受講者が受講しやすい方法に配慮しながらの展開が求められる。

#### 2.2 選択理由

##### 2.2.1 助産師への社会的ニーズとその課題

厚生労働省は、切れ目のない助産師のケア提供、助産所の多様化、助産師の活躍の場の多様化、助産師の就業場所の偏在の是正、嘱託医や連携医療機関の確保、正常妊娠・正常分娩における助産師の活用、タスクシフトの推進といった助産師の活動推進に向けた方向性が示され、助産師の活躍の場が拡大している（厚生労働省、2022）。このような時流により、病院内から地域までの広い範囲で、活躍できる助産師が必要とされていると言える。しかし、地域で活躍できるようにする助産師のため教育課程は確立されていない。このようなリカレント教育は、現在、不十分である。そのため、教員を含めた起業や開業の知識の修得を助産師は行う必要があると考えられる。

(参考文献)

厚生労働省. (2022) 助産師関連施策について.

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000187231.html>

(閲覧 2023 年 1 月 4 日)

3 アクションプラン作成内容

- 3.1 コース名「助産師のための開業・起業教育コース」
- 3.2 修得に関する方針 5 項目作成
- 3.3 コース受講者の受入れに関する方針 6 項目作成
- 3.4 コース編成及び実施に関する方針 3 項目作成
- 3.5 コースカリキュラム・マトリックス 3 講座作成
- 3.6 コーススケジュール 7 月～12 月の期間 45 分×18 コマで作成
- 3.7 3 講座の各シラバス作成
- 3.8 助産師のための開業・起業教育コース初期費用立案
- 3.9 ポスター作成

4 アクションプラン作成までのスケジュール

- 2022 年 7 月 3 日まで 2022 年度セカンドステージ事前課題提出
- 2022 年 7 月 4 日 助産師教育に関する課題と解決策を発表および方向性の検討  
先生方との第 1 回オンラインミーティング
- 2022 年 8 月 30 日 先生方との第 2 回オンラインミーティング
- 中間発表までの期間 先生方とのメールミーティング 4 回実施
- 2022 年 9 月 4 日 中間発表会  
先生方との第 3 回オンラインミーティング
- 2022 年 9 月 27 日 先生方との第 4 回オンラインミーティング
- 2022 年 10 月 13 日 先生方との第 5 回オンラインミーティング
- 2022 年 12 月 6 日 最終発表会
- 2023 年 1 月 4 日 アクションプラン最終版提出および報告書提出

5 受講後の感想

将来の助産師教育を見据えた 1 つの目的を決めて、発展的なカリキュラムを作成していくことは、非常に苦勞しました。カリキュラムそのものが、どのように作成されているかさえも曖昧な知識でしたので、ご担当頂いた先生方には多くのことを教えて頂き、導いてくださったことに感謝致します。3 つのポリシーの重要性や、そこに来て学んでいただく方の背景などを細かく調査し、検討を重ねながら、理想的な教育と現実的な時間・資金・期間・興味関心とのギャップが提供側の一方的なものにならないように考えることの難しさを感じました。ですが、軸をずらすことなく、どのようにすれば実現可能性が高まるのかを検討していくことは、とても楽しい過程でした。多くの学びを得ることができたため、受講して良かったと感じています。

(2) 2G: 周産期標準模擬産婦養成のための「全国助産師教育協議会周産期標準模擬産婦養成講座」を開催する

全国助産師教育協議会  
令和4年度 セカンドステージ研修報告書

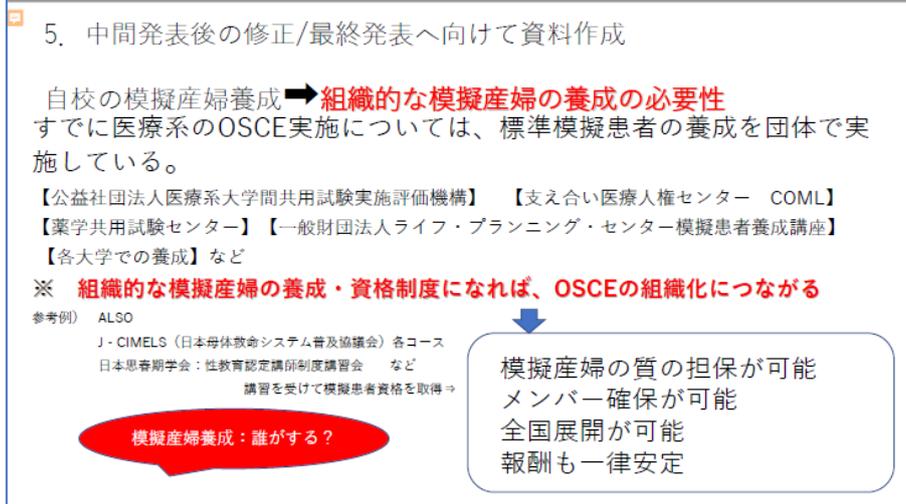
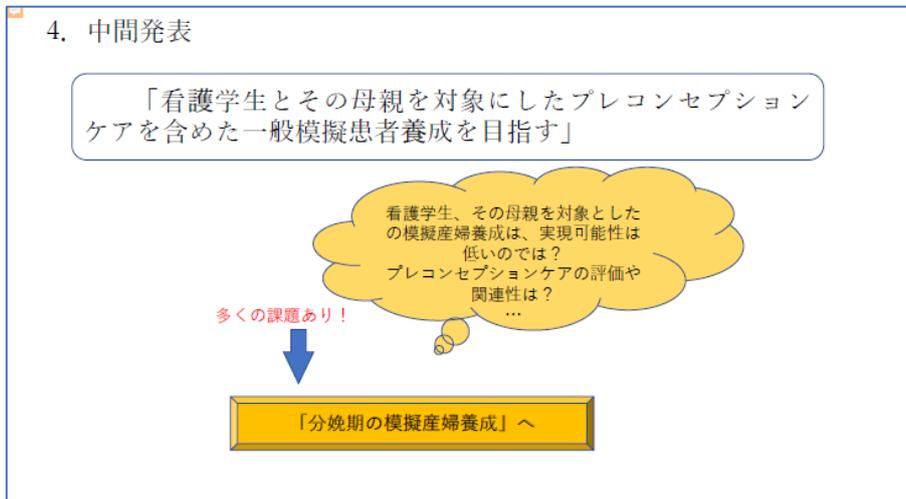
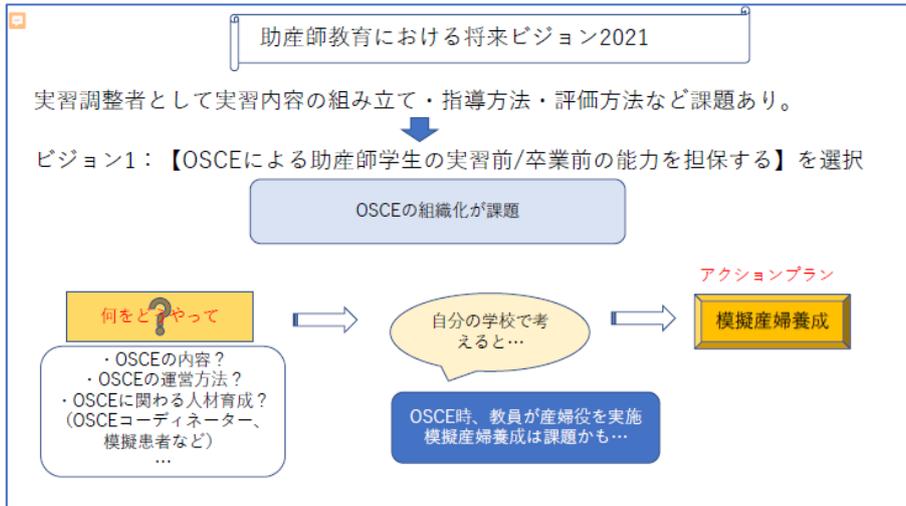
自 令和4年7月10日  
至 令和4年11月6日

佐賀県医療センター好生館看護学院 助産学科  
山崎 康枝

2022年度 セカンドステージ研修		研修スケジュール	
月日	研修内容	方法	内容
1	申し込み～7月初旬 事前課題	自己研修	「助産師教育に関する課題と解決策」についてのプレゼンテーション原稿を作成
2	7月10日 <b>第1回目 事前課題発表</b> 【今年度のテーマ】 「助産師教育における将来ビジョン2021」よりアクションプラン作成	オンライン	講義：助産師教育における将来ビジョン2021 研修生の事前課題の発表 研修生間でのディスカッション ファシリテーターからの助言 今後のアクションプラン作成への方向性確認
3	7月～9月 「OSCEの組織化」というテーマでアクションプラン作成へ ファシリテーターへの相談	自己研修 メール オンライン	メールで助言を受けながら、OSCEの組織化についてアクションプラン作成へ。
4	9月4日 <b>第2回目 中間発表</b> 中間発表後、修正点と今後の方向性を確認 修正作業へ	オンライン	中間発表及び研修生間のディスカッション ファシリテーター等、参加者からの助言を受け、最終発表に向けての課題を確認。 最終プランへの修正作業に入る。
5	9月～10月 最終発表へ向けての資料作成へ ファシリテーターに相談・助言を受ける	自己研修 メール オンライン	最終発表へ向けて、ファシリテーターに相談しながらアクションプランの作成作業。
6	11月6日 <b>第3回目 アクションプラン発表</b> 発表後、アクションプランの修正	対面	最終発表。最終発表後、助言を受けた部分を修正し、後日アクションプラン修正版を提出。

1～6の各段階毎の状況

1. 「助産師教育に関する課題と解決策」  
事前課題「助産師教育に関する課題と解決策」については、実習調整者として主に助産実習についての課題・自身が考える解決策についてプレゼンテーション資料をまとめた。
2. 第1回目の研修会（オンライン）で、事前課題の発表。  
研修生間のディスカッション及びファシリテーターからの助言を受けた。
3. アクションプラン作成へ  
【今年度のテーマ】  
「助産師教育における将来ビジョン2021」に基づくアクションプラン作成であり、ビジョン1～ビジョン4までの中から、ビジョン1を選択し、アクションプラン作成作業へ入った。



6. 最終発表から修正プラン作成

令和4年度セカンドステージ研修  
【アクションプラン最終発表 R4.11.6】 開催場所：全助教事務局

周産期標準模擬産婦養成協議会を立ち上げ  
「周産期標準模擬産婦養成講座」を開催する。

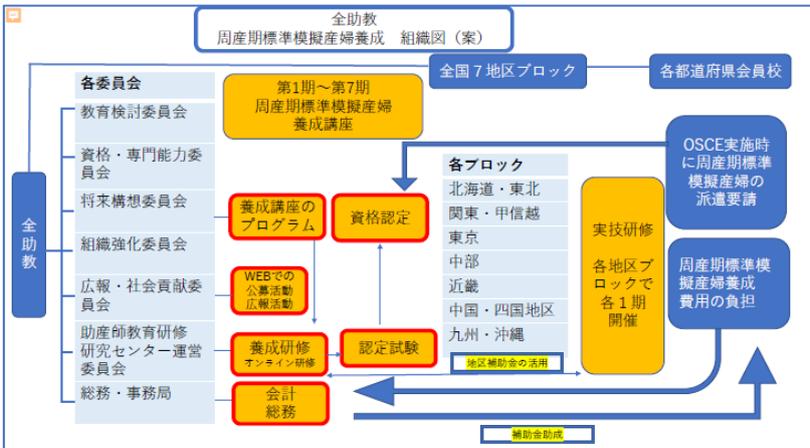
発表後、助言を活かし修正

【修正プラン R4.11月】

周産期標準模擬産婦養成のための  
「全国助産師教育協議会周産期標準模擬産婦養成講座」  
を開催する。

全助教の委員会組織で「周産期標準模擬産婦養成講座」を開催する

全助教	周産期標準模擬産婦【PSP】養成講座 (仮名)
目的	助産師教育におけるOSCEのための周産期標準模擬産婦の養成
養成担当者	【全助教】が主催。全助教の委員会組織が分担し担当する。 *講師についてはOSCEに精通した助産師教員(OG)に依頼「〇〇大学 〇〇先生」
周産期標準模擬産婦養成対象者	女性(助産師経験のある年齢は概ね20代~40代女性) *臨床から一時離れている助産師、育休中の方、学生の実習に御協力いただいた継続事例さん等
養成人数 養成場所 参加費用	定員 30名/回 自宅でオンライン研修、実技研修(6時間)は全国各ブロックの養成所一覧より選択し受講する。 養成講座の参加費用 1,000円
養成期間 養成時間 (単位制)	2023年5月1日~11月末(案) 年7回開催 10単位:20時間 (一回の開催時間は2時間~6時間) *経験により必須と不要の科目選定可。 *オンライン研修(6時間)及び実技研修(6時間)
修了時資格	評価試験あり【周産期標準模擬患者(PSP)認定証】資格取得制度
PSP活動(仮名)	全国各ブロック内の助産師養成校のOSCEに参加 全国からの要請に日程が合えば参加 (仮名) *PSP:Perinatal S tandardized Patient 周産期標準模擬産婦 PSP活動に対し活動費が支給されます。



カリキュラム(案)	講習内容	形式
項目	単位 時間	
①周産期標準模擬患者とは	1 2 『周産期標準模擬産婦養成講座 説明会』 ・自己紹介 ・講座の目的 ・模擬産婦参加による教育効果 ・先輩模擬患者の体験談	オンライン講義【必須】
②コミュニケーション	1 2 『周産期標準模擬産婦の役割とコミュニケーションについて』 コミュニケーション方法について	オンライン講義
③演じ方	1 2 『周産期標準模擬産婦を演じるために』 先輩模擬患者のデモンストレーション・フィードバックの行い方 *オンライン受講内容についての確認試験あり。基準満たせば次の実技に進む。	オンライン講義
☆中間試験		
④実技	3 6 『周産期標準模擬産婦を体験してみよう』 実際にシナリオを演じてみる。	実技研修【必須】
⑤実技	3 6 1日目: 妊娠期/入院時/陣痛が始まってから/出産の時/出産直後/産褥期 オンライン上で各シナリオに沿って演じてみる。 2日目: 各ブロックまたは県の養成校で実際に体験	*1日はオンライン 実技の1日は指定の養成校で実施
⑥★認定試験合格者認定	1 2 認定試験 修了式 認定証授与	試験
合計	10 20 単位 時間	

\*助産師資格ある方は必須項目のみの受講で可。

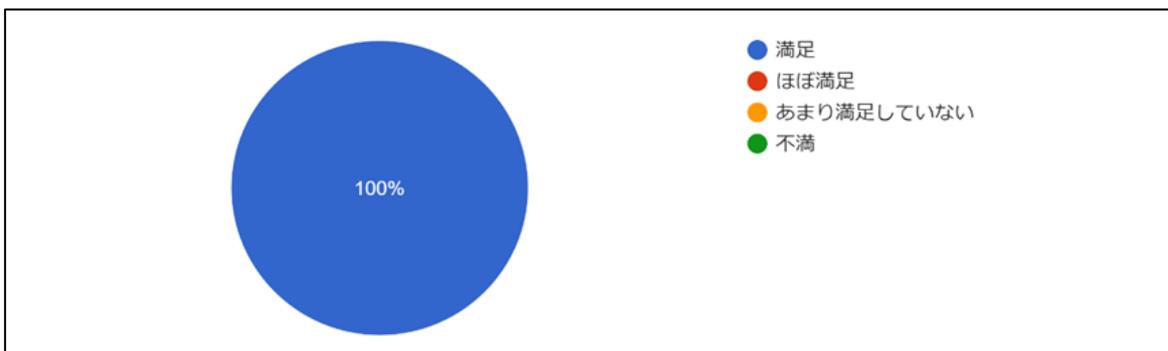
参考文献: 中村薫子・渡邊由加利 看護版OSCEのための模擬患者教育 看護教育 JUL Vol.52 No.7 2011

#### 4) 評価

##### (1) 受講者研修終了後アンケート結果

2022年度 セカンドステージ研修 助産師教育課程概論受講後アンケート(2人中2人回答)

1. 研修の満足度について、該当するものを1つ選んでください。

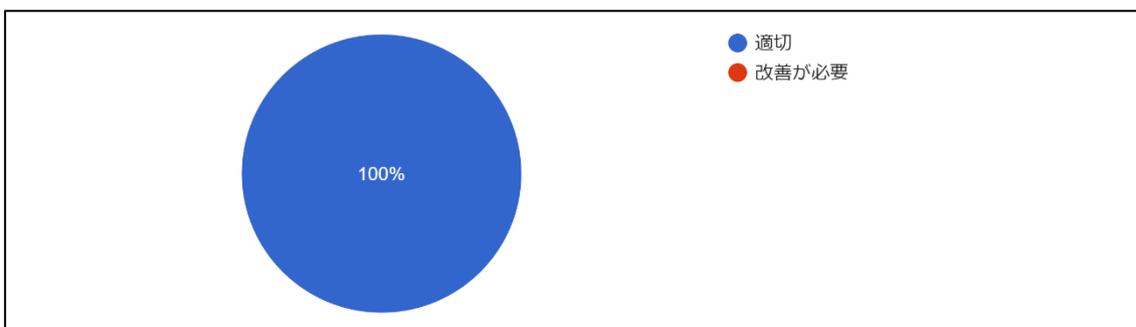


2.1で回答した満足度の理由をご記載ください。

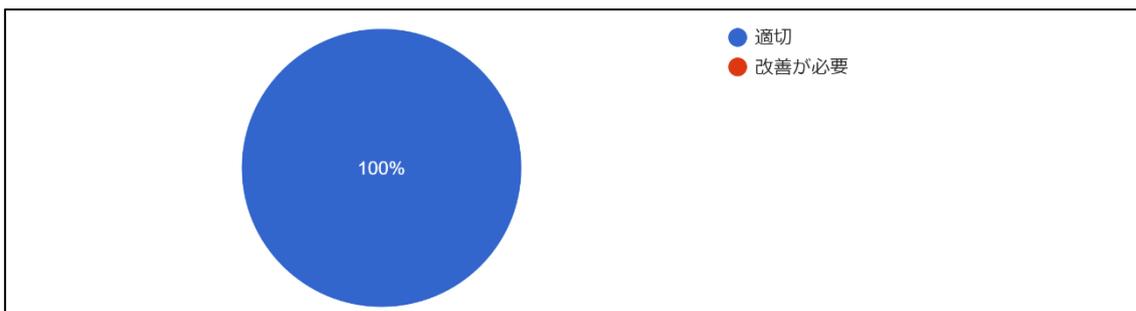
・1つ1つ丁寧に、そして熱心にご助言くださり、共に考えてくださる先生方の姿勢に私自身も頑張ろうと思えて、きちんとした形にまでできたので、満足でした。

・受講前と受講後では、自分自身の助産師教育の全体を見る視野が広がったことと、問題意識を持ち、解決に向けて自らアクションを起こしていくことが大切であると学びました。アクションプラン作成の途中では悩みながらも先生方のサポートをいただけたことで、あきらめずに課題に取り組めたことで、達成感を感じる事ができました。

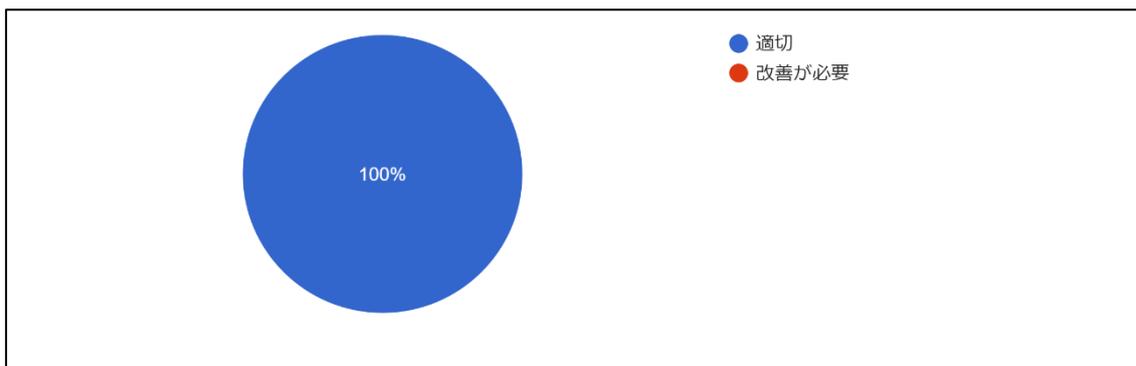
3. 開催時期について該当するものを選んでください。



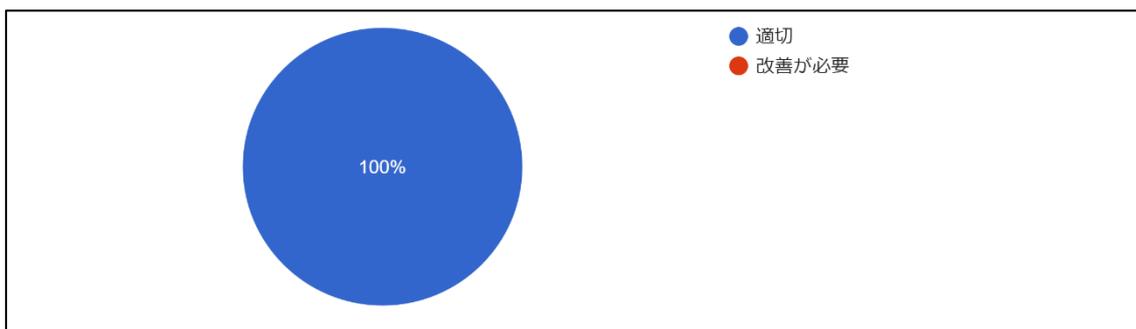
4. 開催期間について該当するものを選んでください。



5.開催時間について該当するものを選んでください。



6.開催方法(オンライン・集合)について該当するものを選んでください。



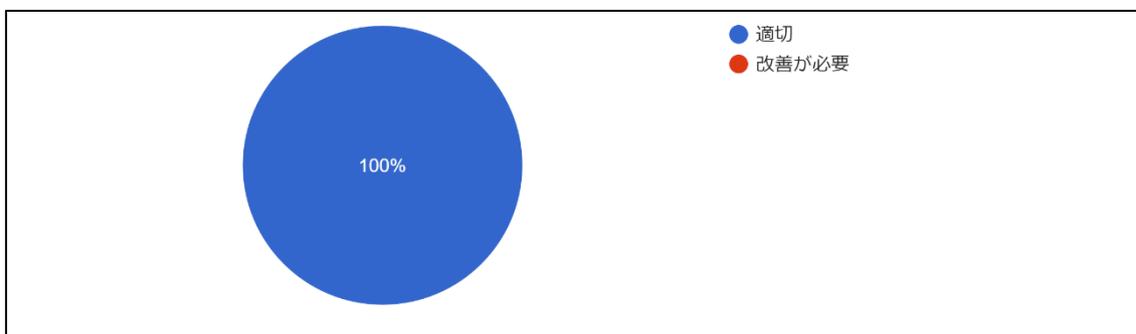
7.3~6 の設問(開催時期、期間、時間、方法)についてのご意見をご記載ください。

・どの時期でも忙しいので、時間を作るのは参加者だと思います。なので、時期や期間は、特に改善ないと思いました。開催方法は、コロナ禍なので適切にしましたが、できることなら最初と最後だけでも、対面で会えると、学生間の交流ができて、良いように思います。

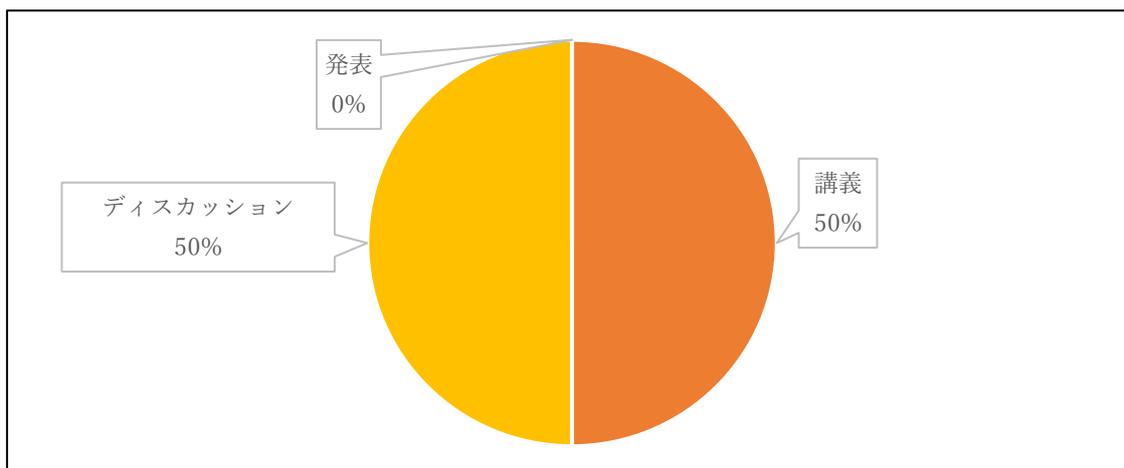
・オンラインでの開催でしたが、移動の負担もなく先生方と意見交換が出来、大変効果的であったと思います。遠方からの参加者にとっては大変ありがたかったです。

また、最後に対面での発表の機会を作ってくださったことで、皆様とディスカッションできたことも大変有意義でした。ありがとうございました。

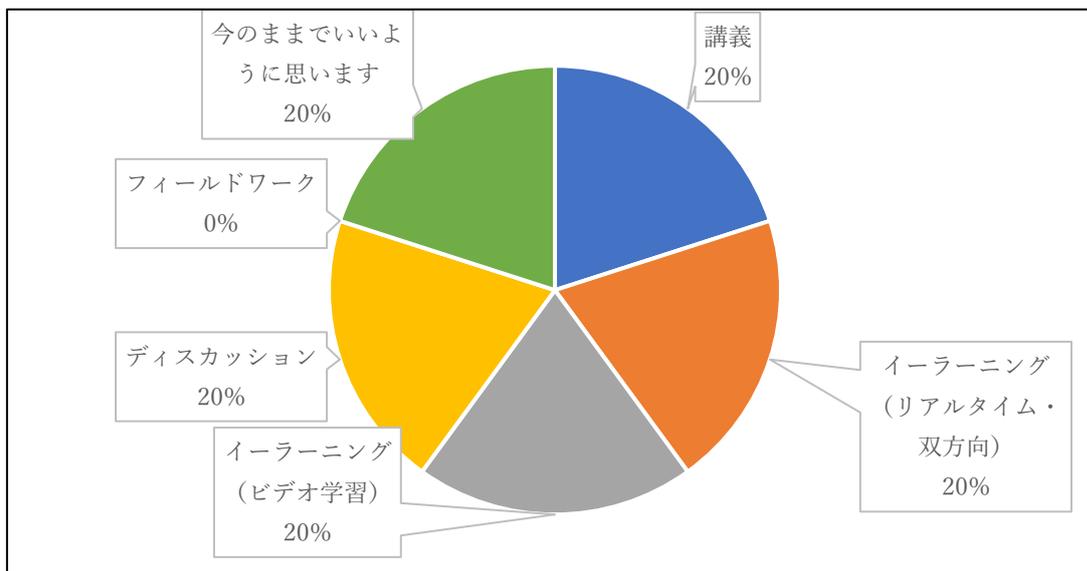
8. 開催様式(講義・ディスカッション・発表)について、該当するものを選んでください。



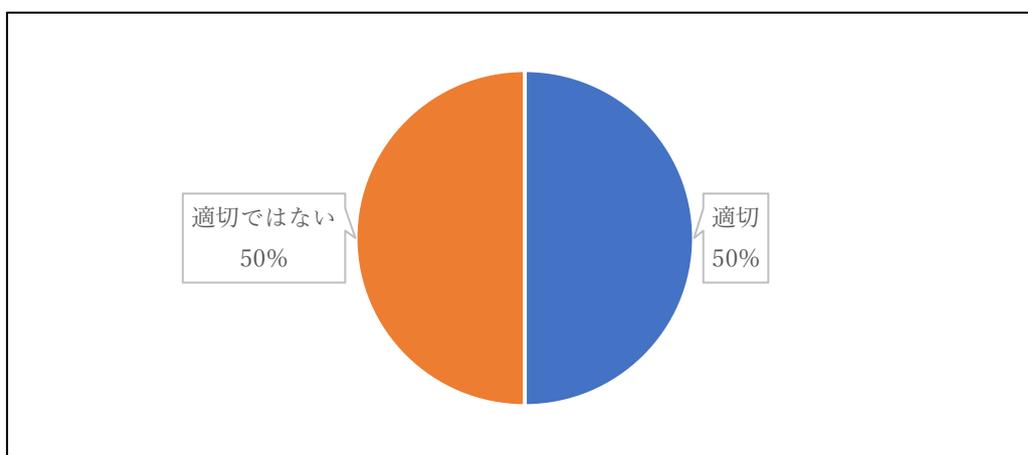
9. 改善が必要と回答された方にお伺いします。改善が必要だと思われたのは、以下のどの項目に該当しますか。



10. 開講様式において、今後取り入れるのが望ましいのは以下のどの項目に該当しますか。



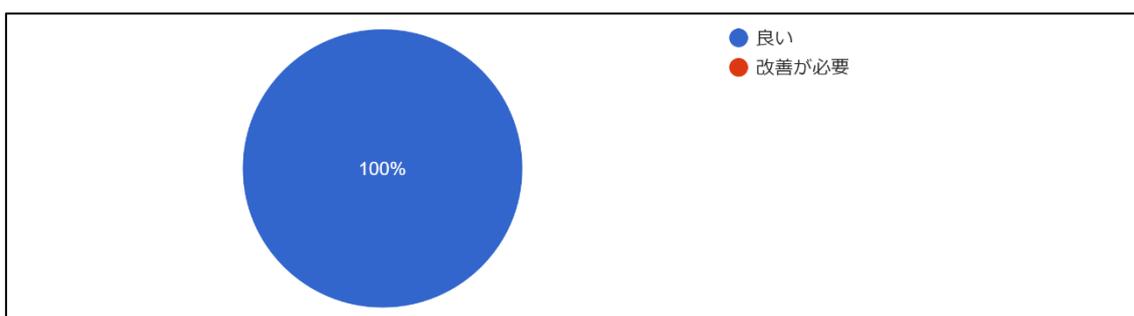
11. 科目のレベルはあなたにとって適切でしたか。



12.11 の設問で「適切でない」と回答された方にお尋ねします。その理由をご記載してください。

・受講の動機は、助産師教育課程概論として講義等を聞き学ぶことを想定していたため完全に受け身の状態であり「将来の助産師教育を見据えた発展的なカリキュラム開発ができる」というセカンドステージ研修の目標のレベルに自分自身が追い付いていませんでした。しかし、アクションプラン作成の過程を通じ、様々な助言をいただき、助産師教育全体のことを考える視野が広がり、他の研修生の発表等を聞きいろいろな方法で助産師教育に対するアプローチがあることがわかり、アクションプラン作成の実践が出来たことで、最終的にはセカンドステージ研修の目標に近づけたと思います。

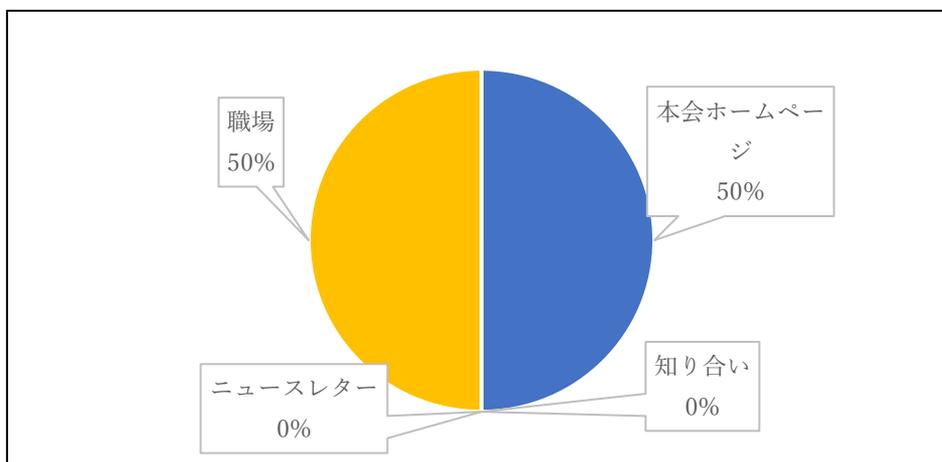
13.プログラムの流れと学習成果の関係性について、該当するものを選んでください。



14.13 の設問で「改善が必要」と回答された方にお伺いします。改善が必要と思われた内容・方法等をご記載ください。

回答無し

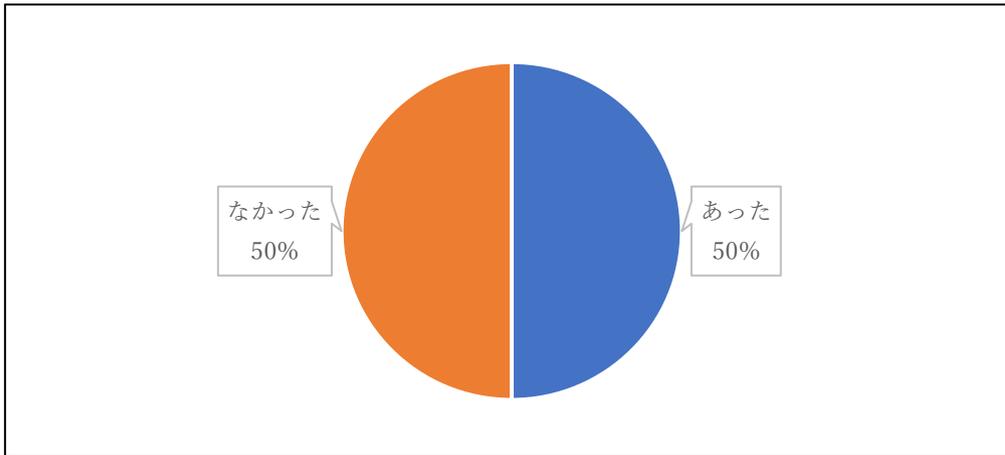
15.この研修をどこでお知りになりましたか。該当するものを1つ選んでください。



16.受講に際し、どのようなご苦勞がありましたか。なかった方は「なし」とご記載ください。

・始めは、求められている事が分かりにくかったので、理解するまで苦勞しました。  
・職場の全面的な協力があり、受講の受けやすさに関しては特に問題なく受講できました。また、職場の同僚の協力や、セカンドステージ研修を受けた上司に相談できたこともサポートとして大きかったです。

17.受講費について、職場からの援助がありましたか。



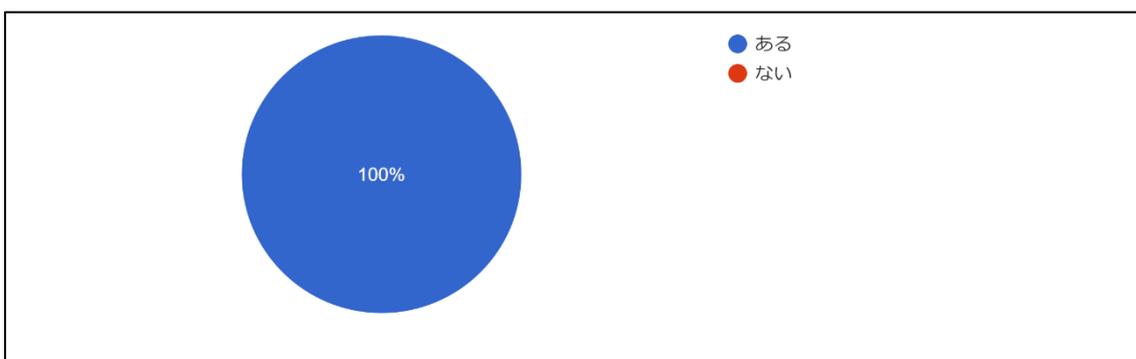
18.本研修を通して改善点や意見、感想などご自由にご記入下さい。

- ・やってみたら、とても面白かったです。
- ・コロナ禍で受講生が 2 名ということでグループワークはできなかつたのですが、その分ファシリテーターの先生とのディスカッションができ、大変勉強になりました。
- グループでの受講が可能になれば、多くの意見が出て、幅が広がるのかなとも思います。

19.ご自身の目標に照らして学習到達度、研修の効果、感想についてご記入ください。

- ・教育がどのように作られていくものなのかを知る機会となりました。作られたものを基本として、教育を行っていますが、土台から作ることの大切さ、大変さを身をもって経験することができたので、今ある組織、他の組織を見る時の視野が広がったように感じています。
  - ・「助産師教育における将来ビジョン 2021」に基づきアクションプランの作成を行いました。作成にあたり助産師教育に関する課題の認識、その課題に対して将来を見据えて解決策や新たな方法を模索していく中で、最終的には「ビジョン 1」の切り口から助産師教育課程概論の科目内容について学ぶことにつながっていきました。また、自己の助産観や教育観などを再認識する機会となりました。
- 敷かれたレールに沿って進むだけではなく、今後は自ら問題意識を持ち、課題を解決していこうとする力と実行力を発揮し、助産師教育に関わっていきたいと思うようになりました。
- 資料のまとめ方などはまだまだ不十分で、今後自己研鑽していきたいと思います。

20.研修への参加で、学習効果以外の利点がありましたか。



21.20 学習効果以外の利点が「ある」と回答した方にお伺いします。どのような利点があったかをご記載ください。

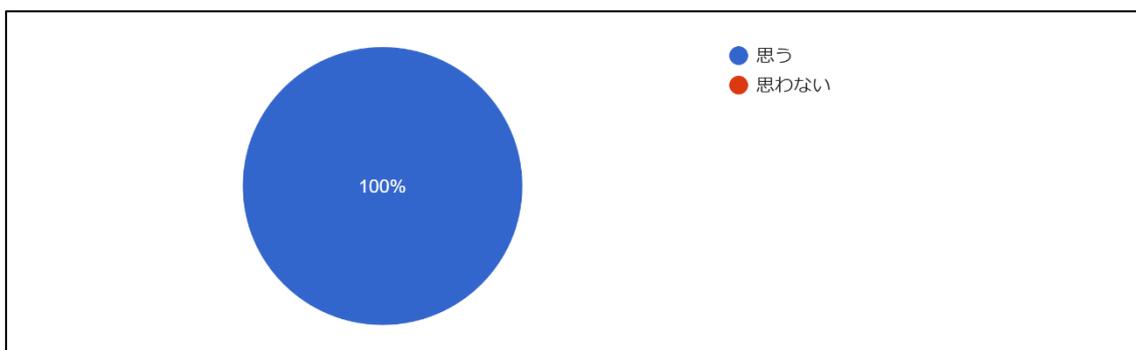
・先生方の学生への姿勢やアドバイスの方法を実際に学生として受けてみて、とても勉強になりました。ありがとうございました。

・今までは実習調整者として目の前の業務を果たすこと、自分自身のことで精一杯でした。研修を受けて、今後の自分の立ち位置として、業務の事だけにとどまらず助産師教育全体を考え問題意識を持つこと、また自ら積極的に行動していく力が必要であり、実践していかなければいけないと思うようになりました。

研修を受け多くのパワーをいただきました。

ありがとうございました。

22.この研修を他の人に薦めたいと思いますか。



23.22 で回答された理由を記載してください。

・自分の課題を突き詰めるいい機会になるので、オススメです。

・研修を受けることで、助産師教育を広い視野で考えることが出来るようになった。自分自身の成長にもつながる。

24.今後、どのような内容の教育研修を希望されますか。

・特になし

・助産師教育課程概論の科目がよい。

### 3. 特定分野(助産)における保健師助産師看護師実習指導者講習会

#### 1) 概要

##### (1) 令和4年度 募集

本講習の目的、募集人員、受講資格、講習期間、科目・講師及び時間割、修了証書の交付、申し込み手続き、受講料および振込み方法、研修場所、受講申し込み書類、受講決定後の連絡、教育内容、時間割からなる募集要項を作成し、定員40名で募集した。募集期間は、2022年5月9日～7月15日としたが、応募の問い合わせがあったため、定員50名までに増やして8月中旬まで延長した。

##### (2) 実施方法

昨年に引き続き、新型コロナ感染防止の観点から、オンデマンド、オンラインのみとし、対面は行わなかった。日程は以下の通り。

オンデマンド研修：令和4年8月1日～17日

オンライン研修(Zoom)：令和4年8月20日・21日・9月3日・4日・17日

##### (3) 受講生の状況

#### 【1】受講生の数 41名

#### 【2】受講生の背景

①所属・職位 病院・診療所・助産所 31名 (副師長8名、所長1名、その他22名)  
教育機関 9名 (助教・助手6名、専任教員1名、その他2名)  
その他 1名

②実務経験年数 3年未満 1名  
3～5年未満 6名  
5～10年未満 8名  
10～20年未満 16名  
20年以上 10名

③年齢 20歳代 3名  
30歳代 14名  
40歳代 21名  
50歳代 3名

平均年齢：40.3歳(昨年より2歳下)

#### 【3】修了者数

修了者は41名、未修了者0名。(1名の受講生が体調不良にて1.5時間欠課)

平成27年度から令和4年度までの修了生は498名となった。

## 2) 2022 年度開講科目実績

### (1) 講習科目と担当講師

科目名		時間	講師名		講義形式
教育および助産に関する科目	教育原理	1.5	宮野 安治 (大阪教育大学 関西福祉科学大学 名誉教授)		オンデマンド
	教育心理	3	林 龍平 (関西福祉科学大学 教授)		オンデマンド
	教育方法	3	細尾 萌子 (立命館大学 准教授)		オンデマンド
実習指導に関する科目	助産学実習指導の実際Ⅰ (教育課程)	3	浅見 恵梨子 (甲南女子大学 教授)		オンデマンド
	助産学実習指導の実際Ⅰ (実習指導)	6	五十嵐 稔子 (奈良県立医科大学 教授)		オンデマンド / オンライン
	助産学実習指導の実際Ⅱ	24	内藤知佐子 (愛媛大学医学部附属病院総合臨床研修センター 助教)		オンライン講義・演習 (グループワーク、指導の実際を含む)
			山崎 圭子 (湘南医療大学大学院 教授)	五十嵐 稔子 (奈良県立医科大学 大学院 教授)	
倉本 孝子 (社会医療法人愛仁会 本部 看護部長)			白石 三恵 (大阪大学大学院 准教授)		
飯塚 幸恵 (東京女子医科大学 講師)	足立 朋子 (甲南女子大学 助教)				

### (2) 助産学実習指導の実際Ⅱの演習内容

助産学実習指導の実際Ⅱの演習科目においては、指導技法の実際(ファシリテーション・コーチング・リフレクション)の講義・演習の後、コーチング・リフレクションの事例を通じた演習、分娩介助実習における実習指導案の作成を行った。指導技法においては1グループ 3名で13グループ編成、実習指導案作成は、1グループ5~6名で 8グループ編成とした。また、今回の指導技法や指導案を活用した指導実践を研修生個々に行い、最終日には、グループワークで作成した実習指導案と指導実践の評価をまとめた。今回は発表時間を各グループ 20分と多くとり、2つのセッションに分かれて発表と意見交換を行った。

指導技法の事例と実習指導案の事例は以下の通りである。

### <指導技法の事例>

A: 分娩介助 7 例目の経産婦

コーチング: 分娩進行が見られた際のアセスメントとケア計画確認の場面

リフレクション: 早く進行した分娩の終了後の場面

B: 分娩介助 3 例目の初産婦

コーチング: 分娩第 1 期潜伏期に産痛緩和ケアが必要な産婦のベッドサイドになかなか行けない学生に指導する場面

リフレクション: 分娩終了後の場面

### <実習指導案作成の事例>

A: 分娩介助 3 例目初産婦の分娩第一期の助産診断

—不安の強い初産婦に寄り添う—

B: 分娩介助 5 例目経産婦、潜伏期から加速期における診断とケア

—寄り添いのケアの重要性に気づくことができる—

## 3) 評価

### (1) 特定分野(助産)における保健師助産師看護師実習指導者講習会アンケート結果

#### 【1】オンデマンド講義のアンケート結果

アンケートは 41 名に配布、42部を回収した(1名重複回答あり)。

#### ① 所属先

病院	26 名(61.9%)
診療所・クリニック	6 名(14.3%)
助産所	1 名(2.3%)
教育機関	9 名(21.4%)

#### ② 助産師経験年数

3 年未満	1 名(2.3%)
3 年以上 5 年未満	6 名(14.3%)
5 年以上 10 年未満	8 名(19.0%)
10 年以上 20 年未満	17 名(40.5%)
20 年以上	10 名(23.8%)

#### ③ 実習指導者の経験年数

3 年未満	18 名(42.9%)
3 年以上 5 年未満	8 名(19.0%)
5 年以上 10 年未満	9 名(21.4%)
10 年以上 20 年未満	6 名(14.3%)
20 年以上	1 名(2.3%)

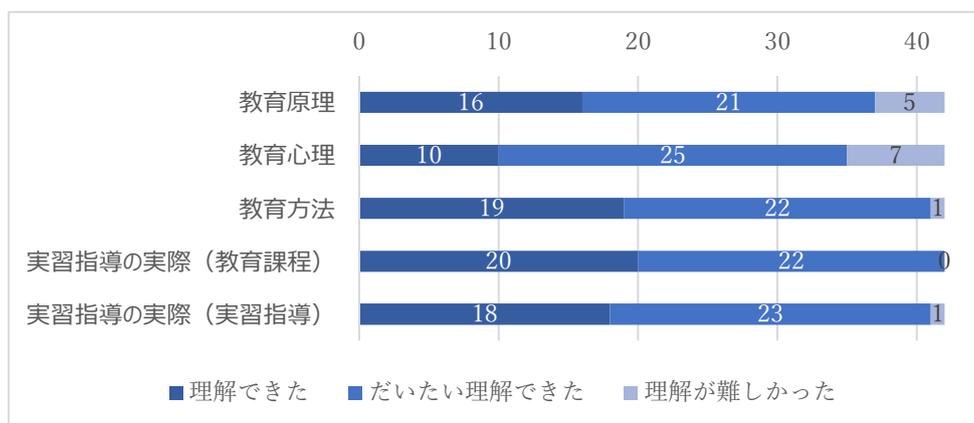
#### ④ 受講動機(複数回答)

自発的に	22名(52.4%)
指導者資格の取得	11名(26.2%)
上司の勧め	21名(50.0%)
勤務命令	1名(2.3%)
その他	2名(4.8%)

#### ⑤ 研修で学習したい内容(抜粋)

- ・助産学生への効果的な指導法、学生の傾向をとらえた指導、学生の求める指導方法
- ・患者さんとの関わりが楽しいと思ってもらえる指導方法
- ・学生のやる気や興味を引き出せるような指導の方法
- ・適切な指導のタイミングやアプローチ方法
- ・臨床に適応できる助産師の育成方法
- ・実習指導の基本と理論的な実習指導案の作成方法
- ・指導者の役割、指導する側の望ましい教育姿勢
- ・教育機関の違いを踏まえた実習指導
- ・学生受け入れの際の実習施設の準備

#### ⑥ オンデマンド研修の理解度



#### ⑦ オンデマンド講義の感想(抜粋)

- ・オンデマンドは、資料や動画の提示が明確であり、話し方も明瞭でわかりやすかった。
- ・途中で止めたり、戻したりしながら確認でき、好きな時に好きなだけ視聴できるのでよかった。
- ・限られた研修期間の中で予めオンデマンドで内容を理解することでスムーズに進むと感じた。
- ・どの講義も興味深く、楽しく学習できた。日々の指導を振り返り、反省した。
- ・集中して学ぶことができた。教育原理や教育心理、教育方法は、改めてじっくりと学ぶことができてよかった。助産学実習指導の実際では、これまで学べていなかった内容を学び直すことができたので、これからの指導案作成や学生への指導に生かしていきたいと思った。
- ・今どきの学生の傾向や現在の助産教育課程についてよくわかった。

- ・実習病院と学校との調整も大事だと再確認した。また、指導における三観を実習受け入れ側も理解する必要があると感じた。
- ・教育原理や心理は内容は難しかったが、現状に当てはめて考えたりして、勉強になった。
- ・ICT教育といった新しい知識を得られ、学習方法の変化など、現状を知る機会となった。
- ・指導に向けての基本的知識から指導案作成までの流れで講義を受け、理解が深まった。
- ・学習者が学習活動に取り組む意欲を引き出す動機づけの大切さを学べたが、動機づけを持ってもらう指導の難しさも同時に感じた。
- ・それぞれの先生方が指導の基礎的な部分から指導の方法、助産師学生に対する傾向やそれに合わせた指導の方法など講義されており、指導とはどのようなことか理解が深まった。
- ・スタッフがコロナに感染してしまい、勤務変更が多く予定通りに学習できなかった。もう少しオンデマンドの時間があるとゆっくり学習できたように思う。
- ・教材が一部映像のみで、PDFでダウンロードできるようにしてほしい。
- ・スライド内に講師の先生の画像が映り、スライドの文字が読めなくなることが気になった。
- ・聞き取りずらかったりして半分程度の理解となった。やはり対面授業が良い。

#### ⑧ オンデマンドの受講についての意見(抜粋)

- ・自分の時間で学ぶことができ、難しい面は再度動画を確認できたので、理解につながった。
- ・オンデマンドなので空いた時間に視聴できるため、仕事、育児と両立ができた点は良かった。
- ・開催日程や期間は、ちょうど良かった(1日1個ずつ受講でも順調に視ることができた)。
- ・60~90分の講義時間は、適切な長さだった。
- ・最初は操作に戸惑ったが、慣れるとオンデマンド受講は便利だと感じた。
- ・実習開始前に、この講義を視聴できたので良かった。
- ・学生のレディネスに合わせた、具体的な声掛けや指導についての講義も聞きたかった。
- ・思っていた以上にボリュームが多かった。勤務をしながらだと時間的に厳しいと感じる。
- ・オンデマンドは受講しやすいが、単調になり集中力が保ちにくい。
- ・図書館の利用がお盆休業と重なり、思うように活用できなかった。実習指導の実際Ⅰでのオンデマンド画面と資料との違いがあり、視聴中に探す時があり少し戸惑った。
- ・インターネット環境もあるので研修申込前にどのくらいの量の講習があるのか知りたかった。
- ・助産学実習中のため、開講がもう少し早い時期だと良かった。

#### 【2】オンライン講義(演習・グループワークを含む)のアンケート結果(39名の回答)

##### ① 助産学実習指導の実際Ⅱの演習についてお伺いします。指導技法のファシリテーション、コーチング、リフレクションの学びは効果的でしたか。

とても効果があった	34名(87.2%)
効果があった	5名(12.8%)

## ② 上の項目で回答した理由をお書きください(抜粋)

- ・学生や新人さんにあわせた発問やティーチングを行えていないことが理解出来た。
- ・日頃の実習指導の振り返りや今後の指導方法を学べた
- ・現場で意識してみると、学生がみるみる変化したので、学びがあったと思う
- ・今の学生さんが考えていることがわからないと思っていたが、世代の特徴や、承認することなどを学び、自らが学生さんと同じ目線で考え話すことが不足していたと気付いた。
- ・今まで自分は相手の話をしっかり聞いたり、承認ができておらず、本来の指導とは程遠い指導をしてしまっていたことに気づくことができた。
- ・ロールプレイをすることによって、自分の傾向を知ることができたので効果的だった。
- ・すぐに使用可能な知識であり、心がけることで学生や新人の指導がスムーズに進むと感じた。
- ・学生の考えを引き出すことが難しかったため、学びを活かした関わりを実施していきたい。
- ・内藤先生の魅力に虜になった。たくさんの技術やコツや心構えを学べた。
- ・内藤先生の講義を受け、指導案作成の時に何度も見返して理解を深めることができた。
- ・理論としてリフレクションやコーチングを学んだことはあったが、実際の指導場面を想定してみんなで指導案を検討することで、自分だけでは気づけない点などにも気づけたことはグループワークで学べたことが大きかった。

## ③ 指導技法のどのような点が活用できると思いますか(抜粋)

- ・リフレクションを意識して取り入れたい。
- ・発問や teaching の使い分けや、学生・新人に対して承認、受け止めることを実践したい。
- ・ファシリテーションやコーチングは、学生の考えを引き出し、時には整理することができる。
- ・クローズドクエッションや選択できる質問で学生にこたえやすくすることも活用できると感じた。
- ・学生や新人だけでなく、すべての勤務するスタッフに対して活用できる技法だと思う。
- ・場づくり。相手を尊重しながら、信じて聞き上手になって聞きたい。否定でなく肯定から入る。
- ・心理的安全性を意識した声かけや態度で信頼関係の構築をはかることはすぐに活用できる。
- ・指導とは教えるのではなく、学生は力を持っているものであると信じその力を引き出せるように働きかけるもので、学生が自分自身で学びを深められるよう導くのが指導技法である。
- ・承認し、相手と関係性を築き、ケアの意味づけができるように思考発話法を用いたい。

## ④ 分悦介助実習の指導案作成の演習では、指導案の作成方法がわかりましたか。

よくわかった 24名(61.5%)

わかった 15名(38.5%)

## ⑤ 実習指導案の作成についての学びは効果的でしたか。

とても効果があった 25名(64.1%)

効果があった 14名(35.9%)

## ⑥ 上の項目で回答した理由をお書きください(抜粋)

- ・教育三観について学び、指導案も例題があったのでイメージを持つ事ができた。
- ・指導対象の個別性や達成度を考えて、作成していく必要があると学んだ

- ・事前課題や実習目標を確認して指導に臨むことに、効果がとてもあると感じた
- ・指導案を実際に作成することで、理解が深まった
- ・指導案の意義を理解することが出来た。意義を理解することで実習は指導の注意点や協調したい点など意識して指導に当たる事が出来ると感じた。
- ・普段の指導場面では指導案を作成することはないが、行っていることの裏付けができて、自分の指導が妥当かどうか確認できた。
- ・指導計画を立て学生と関わることで、学生の系統的な学びをサポートできると実感できた。
- ・学生の背景を理解することが大事で、個々の学生に応じた目標が必要となると学習した。
- ・1人では考えられなかったこともグループで考えることで視野が広がった
- ・分娩介助 3 例目と 5 例目でもアセスメント判断力や指導者の関わり方も異なる中で、他の施設やメンバーの考え方も様々であるため、自分の引き出しを増やすことができた。

⑦ グループワークによる学びは効果的でしたか。

とても効果があった	30名(76.9%)
効果があった	9名(23.1%)

⑧ 演習の時間はいかがでしたか。

多すぎる	1名(2.6%)
丁度良い	30名(76.9%)
やや不足	7名(17.9%)
かなり不足	1名(2.6%)

⑨ 演習のサポートはいかがでしたか。

良かった	32名(82.1%)
まあまあ良かった	7名(17.9%)

⑩ 最終日の発表時間・発表内容・発表方法についての意見をお書きください(抜粋)

- ・発表時間を 20 分もらえることで、深く意見交換を行うことができた。
- ・グループ数と時間配分、方法について最適だった。
- ・他のグループの発表をきき、別の視点での学びを得ることができ良かった。
- ・グループごとに特色があり、パワーポイントの作成についても見せ方など勉強になった。
- ・ディスカッションが短く感じるほど、活発な意見がでていて、とても勉強になった。
- ・グループワークではそれぞれ立場も違い環境も異なるが助産師であり後輩を育てていきたいという共通点がある一つの仲間だった。時間外でも zoom を使用し話し合いながら学びを深められ、とても勉強になった。
- ・録画ですべての発表をゆっくりと見れることは、学びを深めるために効果的だと思った。
- ・ZOOM や Google スライド等に不便はないが、やはり対面で実施したかった。
- ・他グループの指導案やスライドに目を通す時間が少なく、あまり内容が頭に入ってこなかった。
- ・他の皆さんの実践(レポート)の学びをもっと聞きたかった。

・発表方法について議論する時間がなかったため、単調な発表になってしまった。

**⑩ 講習会を終えて、実習指導に対するあなたの考えや思いについての意見をお書きください(抜粋)**

- ・学生の指導ポイントは、新しく指導をする人にも大事にしてほしいので、病棟で伝えたい。
- ・今までは、臨床で学生指導にあると、面倒だと感じていた。今回、いろんな手法を学んだので、早く実践したくなった。これからの後輩育成にもっと尽力していきたい。
- ・承認をすると学生の自信につながるし、職場でのより良い雰囲気作りにつながると思った。
- ・助産師のロールモデルとなれるよう更に学び、産婦さん、学生さんに寄り添っていきたい。
- ・学生を受け入れる以上、効果的に学んでもらいたいし、後輩を育成することは助産師の使命でもあるので積極的に関わっていきたい。
- ・実習指導者だけでなく頑張るものではなく、実習目標に沿って病棟全体で学生を育てられるような環境を作っていけたらいいと感じた。
- ・助産学生にただ介助技術を教えるのではなく、患者への関わりや大切にしている助産観もしっかり伝えられる助産師指導者になりたい。
- ・自身が安全基地となって、学生を守りながら学びをサポートしていけるよう、努力したい。
- ・臨床現場では、様々な状況があり、全てがガイドライン通りではない場合がある。それらに関しても、意味付けや反面教師にってもらうなど、学生が混乱しないように関わってほしいと思う。臨床と大学との連携をしっかりととり、同じ目標で学生の成長を促していきたい。
- ・学生の特徴(個性や経験値など)をふまえて、学生の目標と教員、臨床側の目標をすり合わせておくことが大切である(教員は調整役)。
- ・教育は難しいけれど、非常に尊い、面白い、興味深いと思った。臨床では忙しい中、片手間に面倒くさいなど思いつつ教育に携わっていたが、今回講習会を受けたことで見方や意識が変わった。教育を通して自分も成長していける素晴らしい仕事だと思う。
- ・学生の力を引き出しながら指導していくこと、私達も産婦と学生の両者をアセスメントする等、学生も指導者側も学ぶことが多いと学んだ
- ・自分の改めるべき態度も分かったし、この研修で同じ目的意識をもつ仲間の想いに触れられたのはモチベーションアップにもなった。
- ・学生に対する思い込みは捨て、それぞれの学習状況に応じて今回学んだ指導技法と学生とのコミュニケーションを大事にしながら関わっていききたいと思う。

**⑪ 今回の講習会の学びを今後どのように活用しようと思いますか(抜粋)**

- ・臨床で、新人指導やスタッフにおけて活用したい。自らが変わること、職場の雰囲気が変わることを期待して頑張ろうと思う。
- ・自ら関係作りの承認行動を実践し、職場環境をより良くしていくことが、モチベーション向上につながると思う。
- ・学生一人一人の到達状況、産婦の状況を把握した上で、学生指導にあたりたい。
- ・学生の学びを深め、学習意欲が沸くように指導技法を用いながら指導を行っていきたい。
- ・臨床実習時や新人助産師の教育場面で意図的な発問と関わりを通して、成人学習を促

進めるような指導者として臨床で活用しようと思う。

- ・様々な技法を活用し、どの技法が効果的かケースで考えながら指導に当たりたい。
- ・助産学生だけではなく、看護学生や後輩スタッフの指導の際にも、意識的に承認行動をとり、発問やリフレクションにより学びを深められるようにしていきたい。

**⑬ オンデマンド、オンラインを活用した今回の講習会の運営について、ご意見・ご感想をお書きください(抜粋)**

- ・不慣れのため受講に苦勞したが、遠方でも受講できるのは魅力的で受講しやすいと思う。
- ・自分で決めた時間で e-Learning を見ることができたり、zoom で講習会に参加することができたので、子育てに忙しい人でも参加しやすいのではないかなと思う。
- ・オンデマンド・オンライン講習会のほうが感染以外にも天候などによる移動制限などに影響をうけずに受講できるのでいいと思った。
- ・オンラインでの講習でも、グループワークの時間を多く取っていただいて、一緒に考えたり、事例を共有することができて有意義だった。
- ・オンデマンド授業は繰り返し視聴できるのでメリットは大きいと思う。遠方なので、移動がない分助かるが、対面で様々なお話を聞いてみたいと思った。
- ・事前の研修については時間補償をもらったが、時間をきっかりもらいすぎて アンケートなどの記入の時間や考える時間を確保するのに苦勞した。
- ・オンラインを使用したグループワークではオンラインによるコミュニケーションをとる難しさを感じた。しかし、オンラインでも発表資料が作成でき、共有することができる事を知ることができたので、コロナウイルスが感染拡大している今は必要なことだと感じた。
- ・オンデマンド受講前に資料がほしい。自分でコピーするのが大変だった
- ・指導計画案作成に関しては、是非とも対面でやりたかった。

**⑭ 講習会全体を通しての意見・感想を自由にお書きください(抜粋)**

- ・他の方の考えも大変参考になり、ファシリテーターの先生の導き方もわかりやすかった。
- ・日々の勤務に追われ勉強することを怠っていたが、学ぶことの大切を感じることができた。
- ・色々な助産師と話す機会を得ることができ、非常に楽しい講習だった。
- ・学生の特徴は年々変化するため、その変化に合わせて指導する側も対応していかなければならず、定期的に指導方法の見直しも必要であると感じた。
- ・金額も日にちも受講しやすく、大変勉強になった。
- ・料金、講習回数割に、二か月間学ぶことが多かった。グループワークで、他の受講者の意見をきいたり一緒に演習を行うことでとても学びを深めることができた。
- ・事前の e-learning も視聴は大変だったが、基本的なところから学べて勉強になった。臨床側だけでなく、教員をされている方、これから指導をされる方とさまざまな環境の方と色々話せて、普段の自分の指導のリフレクションの機会にもなった。
- ・2種類のグループでのワークがあったので、違ったメンバーと話し、お互いの日常での指導場面での悩みも共有できたことは良かった。色々な状況の違う助産師が集まることで、意見が多方面から出ることは新しい知見や気づきに繋がり良い経験となった。

- ・自分の助産観が入った指導を、自信をもって出来るように私自身も成長していきたい。
- ・経験年数や現職の場（臨床・教員）が様々な仲間と意見交換できたことがとても良かった。
- ・今回自分は自己負担で参加したが、学びが深く今後の助産師教育に活かせると思ったので、病院全体で助産師教育を考える機会になるよう病院に予算を計上したいと思った。
- ・コーチングの講義は素晴らしく、分かりやすかったので、オンデマンドにして欲しかった。
- ・実際にグループのメンバーに会えなかったことが一番残念。
- ・オンライングループワークは休憩が取りにくく、きつかった。休憩時間を事前に決めてほしい。
- ・参考文献は、もう少し早めに教えていただけると良かった。
- ・助産学実習指導の実際Ⅱの要項の資料は、講義の最初の説明があっってなんとか理解ができる状況だったので、もう少しわかりやすいと講義の導入がスムーズだと思う。

#### 4. e-learning 研修

##### 1) コンテンツ

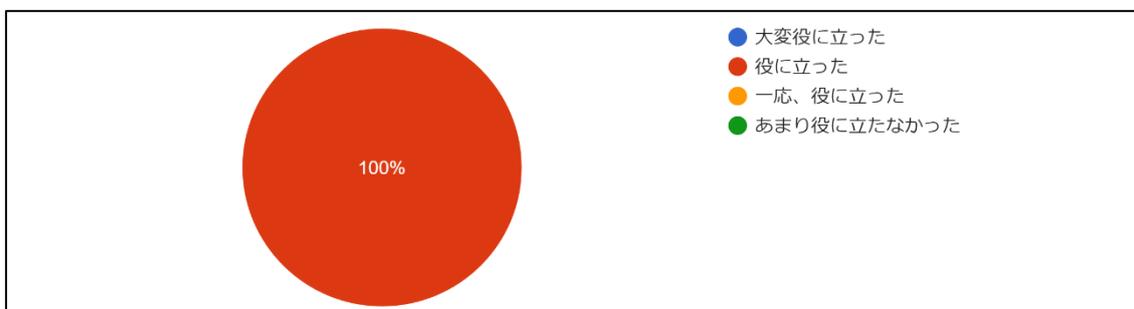
コンテンツ	講師	内 容	時間数
助産論	安達久美子先生	助産ケアの理念と助産師倫理綱領 女性の人権と健康、助産と生命倫理	1.5h
助産論演習	郷原 寛子先生	学校経営と管理	1.5h
助産師教育方法論	村上 明美先生	助産師教育における教授・学習計画 作成の考え方	1.5h
助産師教育方法論 I	高橋 弘子先生	助産師教育における教授・学習活動 の成立① 助産師教育の歴史	1.5h
助産師教育方法論 II	高橋 弘子先生	助産師教育における教授・学習活動 の成立② 現代の助産師学生	1.5h
助産師教育方法論 III	高橋 弘子先生	助産師教育における教授・学習活動 の成立③ 教育現場で活用したい学 習理論	1.5h
助産師教育課程 I	佐々木幾美先生	教育課程の基本原理	1.5h
助産師教育課程 II	佐々木幾美先生	教育課程と法律	1.5h

##### 2) 2022 年度配信数

3 件

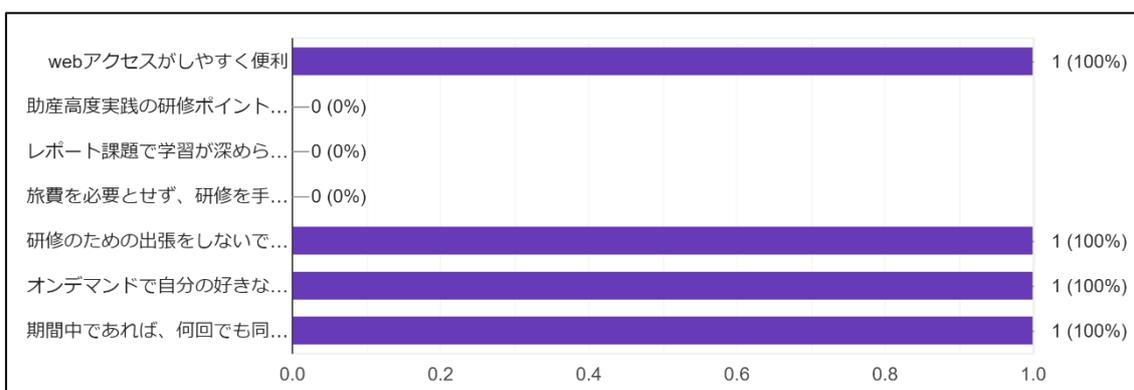
##### 3) 評価

1、視聴されて、役に立ったと思いますか？ 1 件の回答



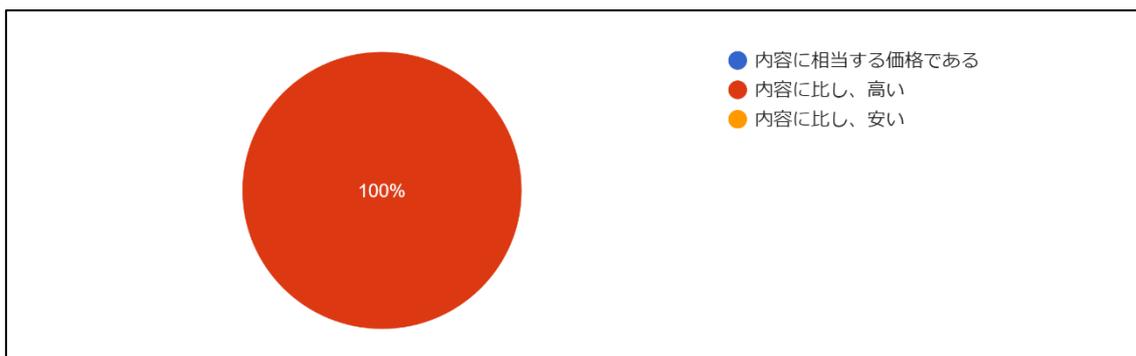
2、以下の事項で該当するものに○を付けてください。(複数回答可)

1 件の回答



3、セット価格(44000円)は妥当と思いますか？

1件の回答



4、あなたが適切と思う価格について教えてください。

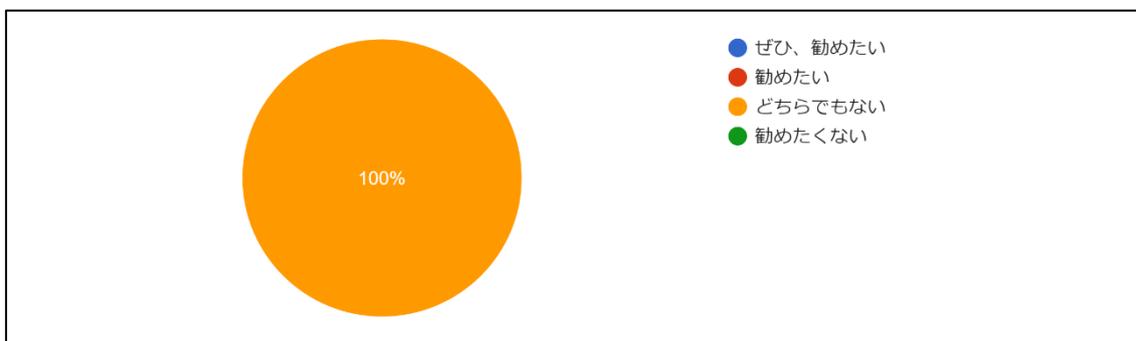
回答なし

5、購入後の視聴期間はその年度内です。年度をまたいでの視聴は再度の購入が必要です。このことについてご意見がありますか？ある場合には、何をどのようにしたらよいかご記載ください。1件の回答

・ 特にありません

6、あなたは、他の人にもこの e-learning 教材を勧めようと思いますか？

1件の回答



7、今後、本会で e-learning の教材開発を推進してゆくために、どのような事を考えたらよいかお聞かせください。

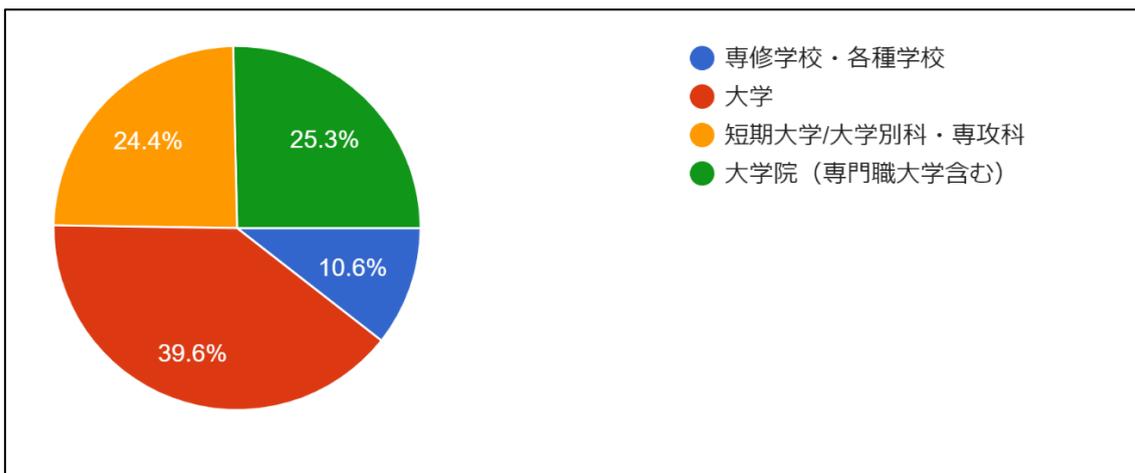
回答なし

8、その他、あなたが本研修センターに期待する事、やって欲しい活動等、ご意見を何でも記載してください。

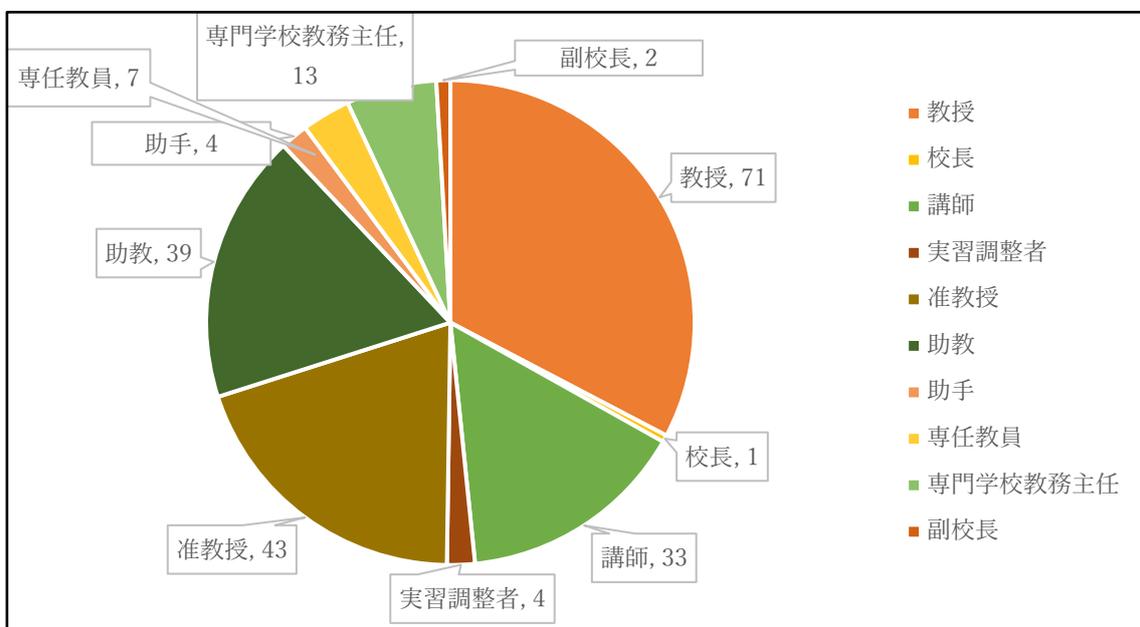
回答なし

5. 助産実習のための非常勤助手（非常勤実習担当教員）研修需要に関する調査

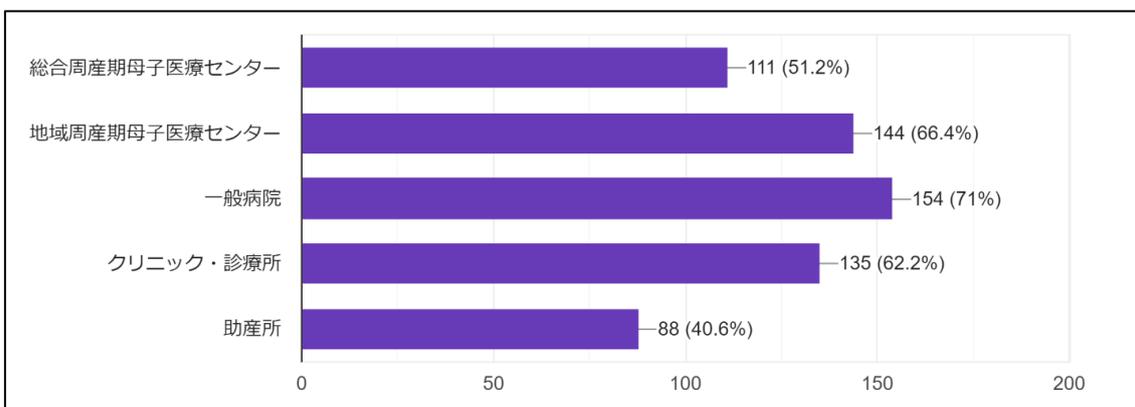
1. 貴校の助産師養成課程に該当するものを1つ選んでください。217件の回答



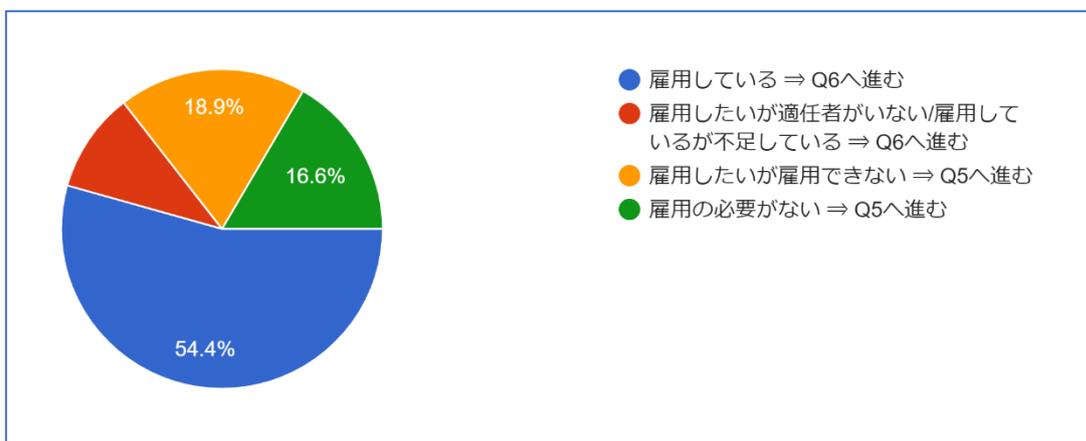
2. 回答者の職位を選択してください。217件の回答



3. 貴校の分娩介助実習依頼施設に該当するものを選んでください（複数可）。217件の回答



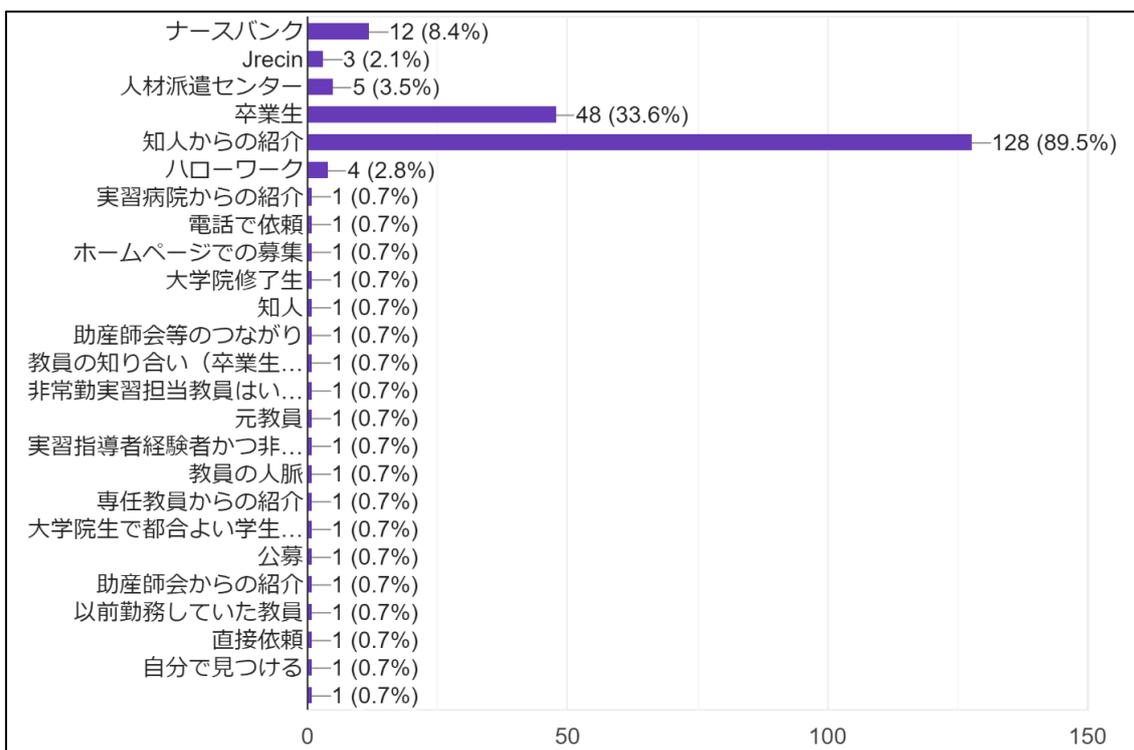
4. 貴校での非常勤実習担当教員の雇用現状について該当するものを1つ選択してください。  
217件の回答



5. Q4で雇用したいが雇用できない、雇用の必要がないと答えた方は、その理由をご記入ください。53件回答

- ・教員数が足りている 17件
- ・教員の定数外のため 4件
- ・法人や大学の方針に沿い雇用出来ない 3件
- ・学校としての金銭的・費用の問題（学生数が少ない上に等）18件
- ・勤務条件が整っていないや人材がない（募集しても応募なし）5件
- ・大学院教育なので、資格審査が厳しい（修士の学位を持った者など）2件
- ・臨床教員や病棟助産師が実習指導を行うため、非常勤実習担当教員は必要ない。2件
- ・実習施設数を少なくすることで対応している 2件

6. 非常勤実習担当教員の募集はどのような方法で行ってられますか。143件の回答



7. 貴校での実習のための非常勤助手はどのような名称ですか。147 件の回答

特別講師

非常勤教員 8件

非常勤講師（実習指導）14件

非常勤実習（指導）教員 22件

非常勤実習指導者（員）5件

非常勤（実習）助手 28件

非常勤職員 2件

臨床教授、臨床講師

看護教育支援（専門）員4件

教務補佐（員）（助手）6件

実習インストラクター 4件

実習（担当）指導教員 17件

実習指導者 5件

（実習）準教員 4件

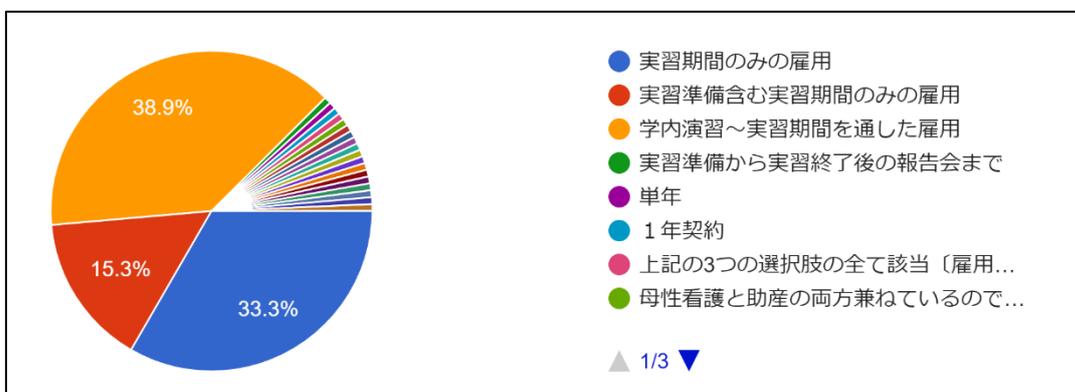
実習補助員（教員・要員）19件

嘱託教員（助手）2件

時間雇用職員 2件

特に名称はなし 3件

8. 非常勤実習担当教員の雇用期間について該当するものを1つ選んでください。144 件の回答



・学内演習～実習期間を通した雇用 56件

・実習期間のみの雇用 48件

・実習準備含む実習期間のみの雇用 22件

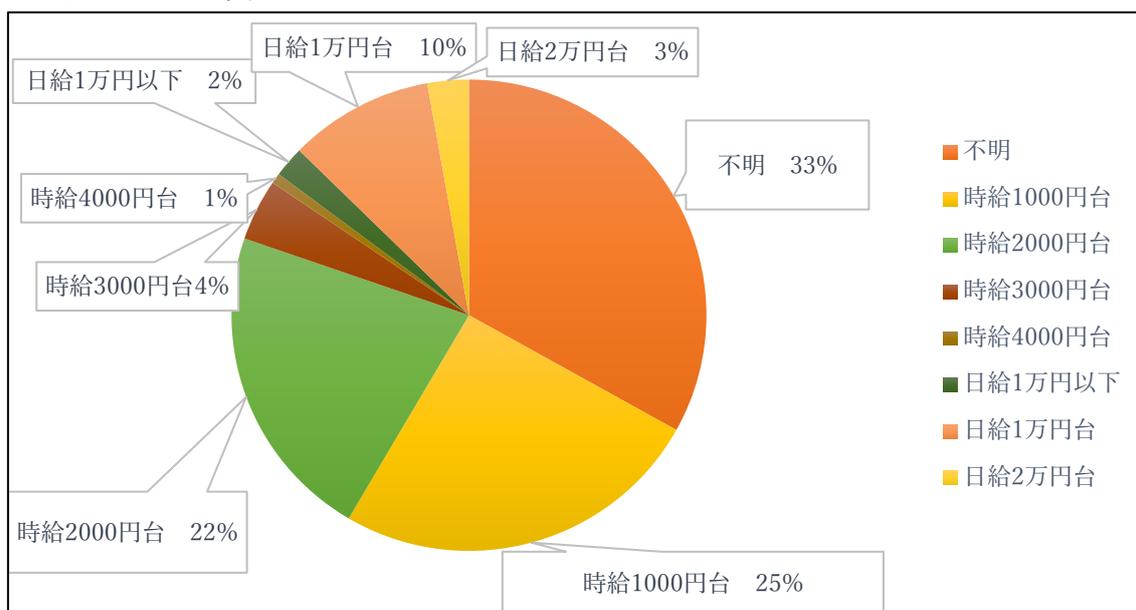
・学内実習から実習報告会まで 2件

【その他意見】

学年歴での前期・後期(学内演習での補助にも入ってもらっている)

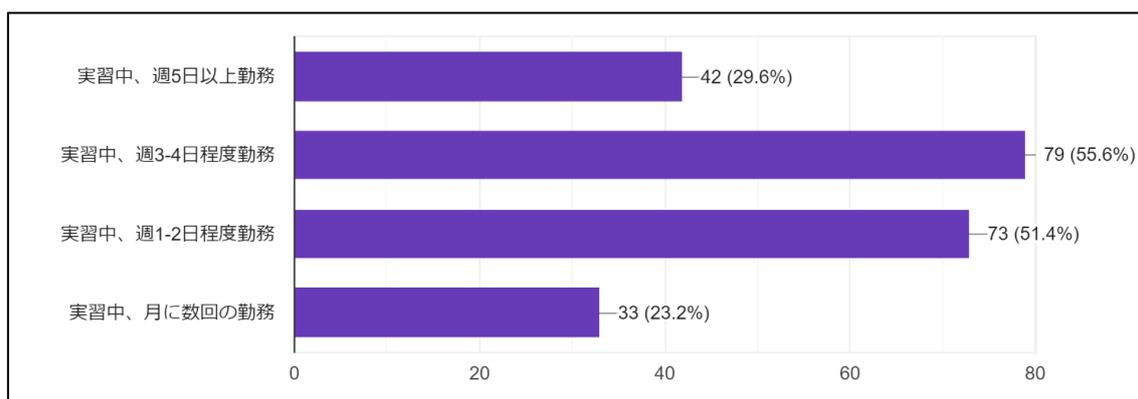
同じ方に、前期は演習補助要員で演習補助をし、後期は実習補助要員で実習補助をしてもらっている。

9. 非常勤実習担当教員の時給もしくは日給(円)をご記入ください(不明の場合は不明とご記入ください)。



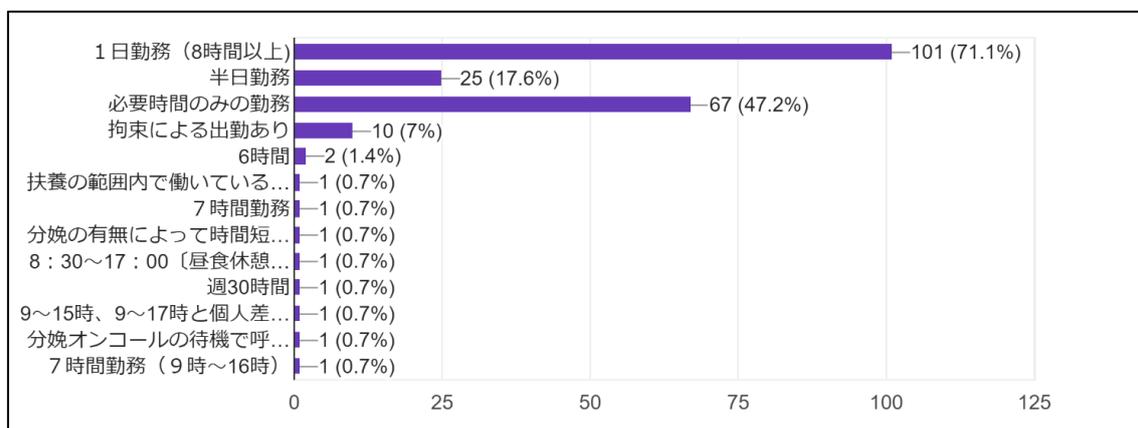
10. 非常勤実習担当教員の勤務日数について該当するものを選んでください。

複数の雇用者によって異なる場合は全て選んでください。142件の回答

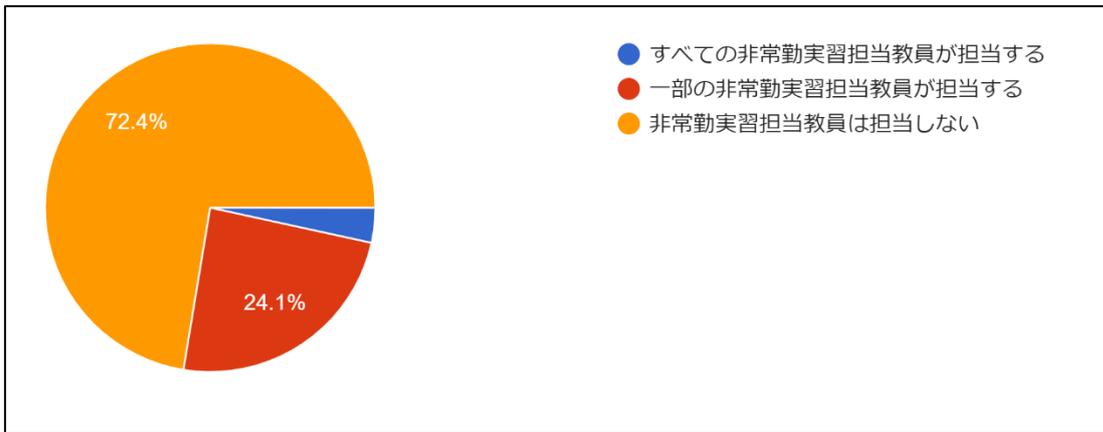


11. 非常勤実習担当教員の1日の勤務時間について該当するものを選んでください。複数の

雇用者によって異なる場合は全て選んでください。142件の回答



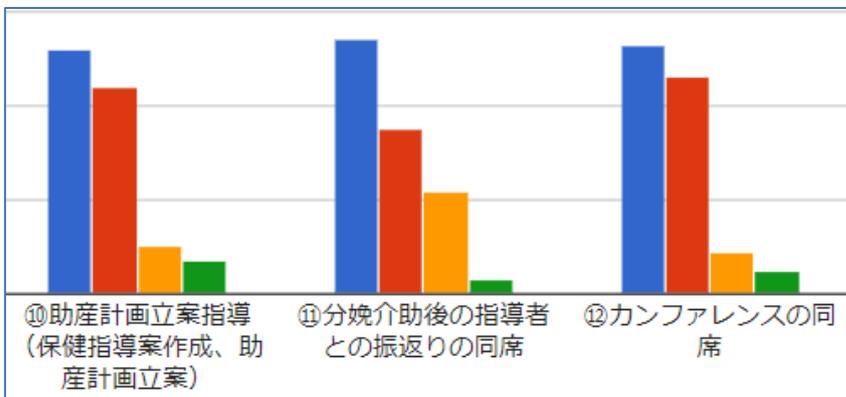
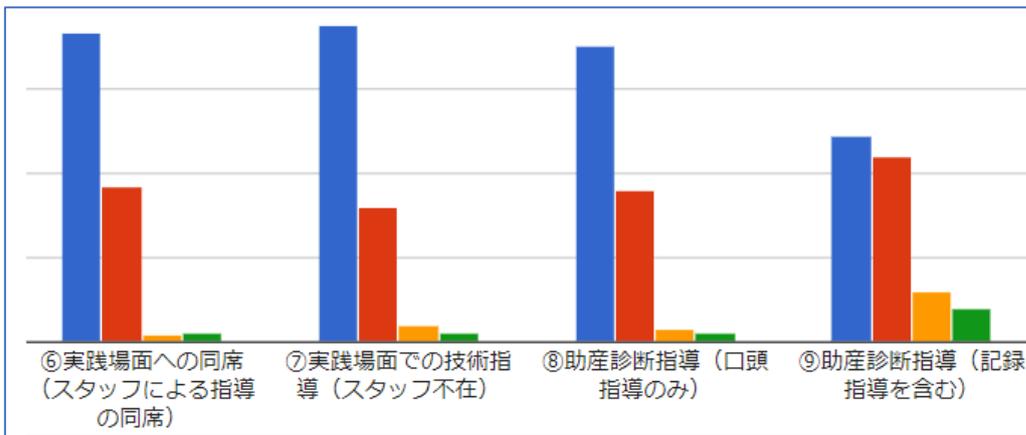
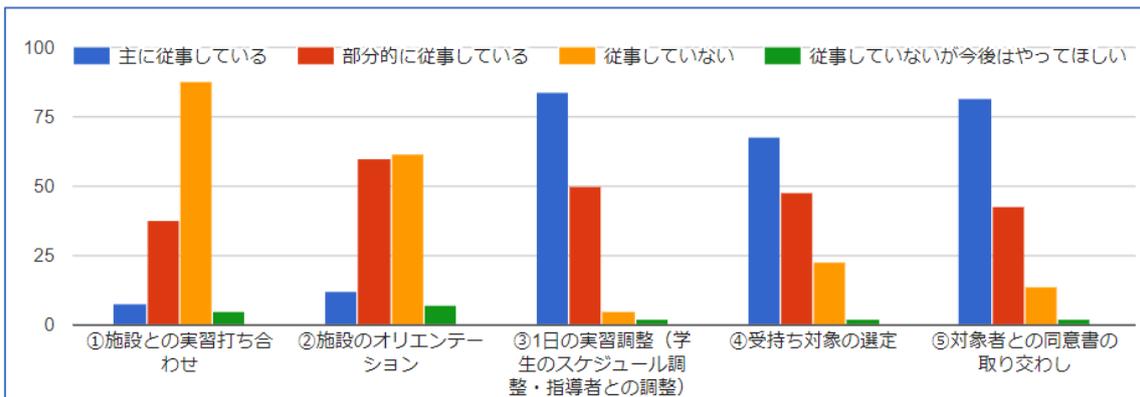
12. 貴校の非常勤実習担当教員は規定の実習時間外(産直, 土日)を担当されますか。該当するものを1つ選んでください。145 件の回答



13. 非常勤実習担当教員の労働条件で配慮していることがありましたらご記入ください(ない場合は「なし」とご記入ください)

- ・なし 28 件
- ・不明 2 件
- ・勤務希望の優先 (居住地近く、希望日等) 53件
- ・定時勤務厳守 (子育て、時間外連絡せず等) 21件
- ・過度な責任を担わせない (分娩介助同意取得、学生の体調不良や実習進度・不明点は専任教員が対応) 8件
- ・収入面配慮 (扶養の範囲内、交通費支給等) 5件
- ・時間外実習時の対応 (代休・給与支払い) 5件
- ・勤務環境配慮 (2 人交代、必要な検査や健診費用の支払い等) 4件
- ・助産師としての臨床経験が十分にあり、教育・実習指導に携わりたい人 2 件
- ・保険加入費負担 2 件
- ・分娩待機 (自宅) の対応 (給与支払い) 2件
- ・教育の質担保 (実習記録の最終点検、実習評価は専任教員が行う) 1 件
- ・業務内容の対応 (実習スケジュールは事前周知) 1 件

14. 貴校の非常勤実習担当教員が従事している業務内容に該当するものを、各項目について1つ選択してください。



15. 上記以外に、非常勤担当教員が従事されている業務や従事してほしい業務がありますか。

・特になし 24件

【そのほかの意見】

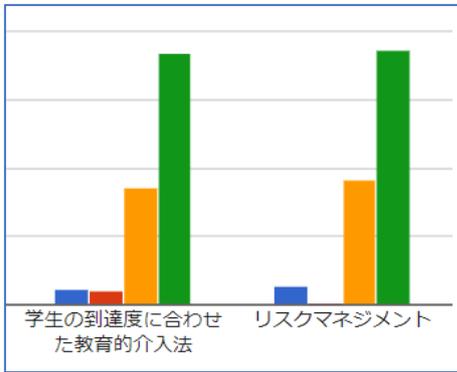
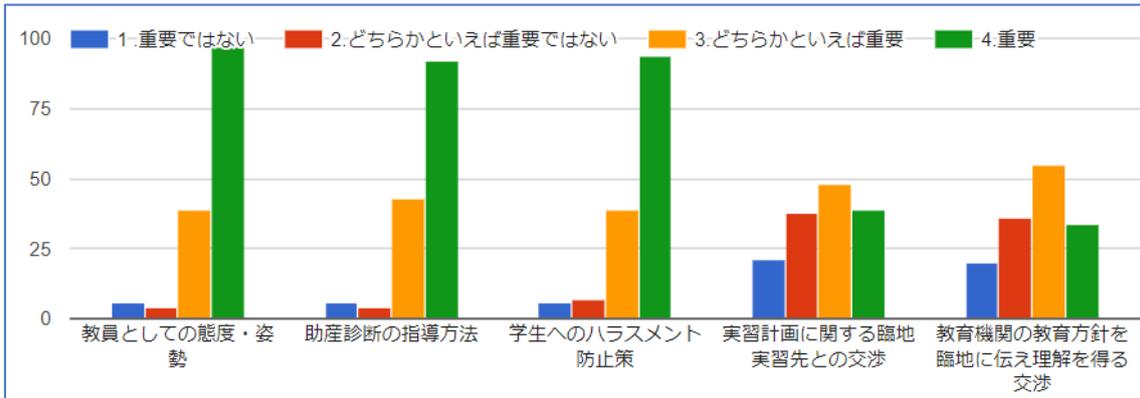
- ・非常勤助手全員に事前オリエンテーション開催を実施
- ・実習の事前準備 2件
- ・学内講義に参加
- ・学内(分娩介助)演習参加 4件

- ・学生の実習オリエンテーション参加
- ・宿舎や事務手続きの一部
- ・専任教員との調整（連絡・相談・インシデントレポート作成等）2件
- ・学内実習の補助、記録指導 2件
- ・家庭訪問、外来の妊婦健康診査および保健指導
- ・学生による実習まとめ発表会の出席3件
- ・学生の体調確認とケア（心身ともに）2件
- ・学生の学習の進捗や学修成果に合わせた指導
- ・緊急時の施設担当者との連絡調整
- ・分娩が長引いたときの時間外勤務 2件
- ・夜間や土・日祝日の待機実習等 4件
- ・実習評価のすり合わせ

16. 従事してほしい業務の遂行が困難な理由がございましたらご記入ください。

- ・特になし 3件
- ・時間の拘束・日数の制限など 9件
- ・夜間実習時の夜間手当てがない 拘束待機の手当てがない など 3件
- ・他施設との掛け持ちや、子育て中であるために困難であるなど 3件
- ・助産診断、助産過程に関する知識不足
- ・多数のインストラクターに学校の方針等を事前に伝えることは難しい
- ・実習補助者ということで、基本的に調整と技術指導のみに限定。記録指導が許されていない。
- ・交通アクセスの悪い施設には非常勤の方の確保が難しい。また、報酬が安いので、担当してもらえない人がいない。
- ・実習施設開拓と必要教員人員の算出が流動的であり、人員探しに大変苦慮しています。
- ・「非常勤」となると相互に負担のかからないやり方に留めるのが得策。責任のある業務を任せるなら相応に教育しそれに見合う報酬・労務環境を整備すべきだと考える。
- ・希望を聞きすぎるところ（実習にはいいほしい）
- ・予算がない、また非常勤教員は兼業がある

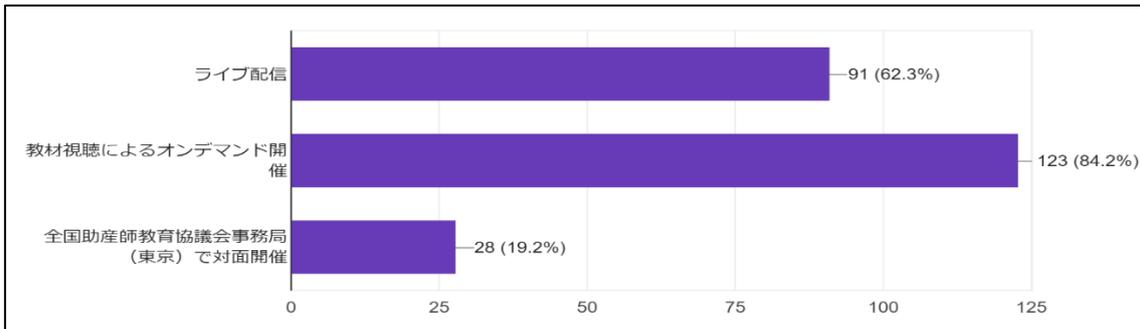
17. 研修内容について(1.重要ではない 2.どちらかといえば重要ではない 3.どちらかといえば重要 4.重要)から該当する箇所にチェックを付けてください。



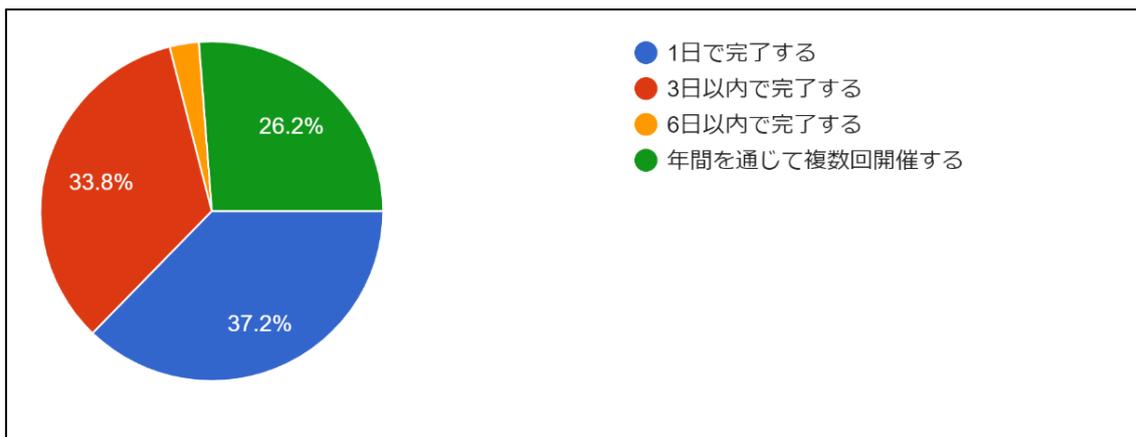
18. 上記以外に希望される研修内容がございましたらご記入ください。26 件の回答



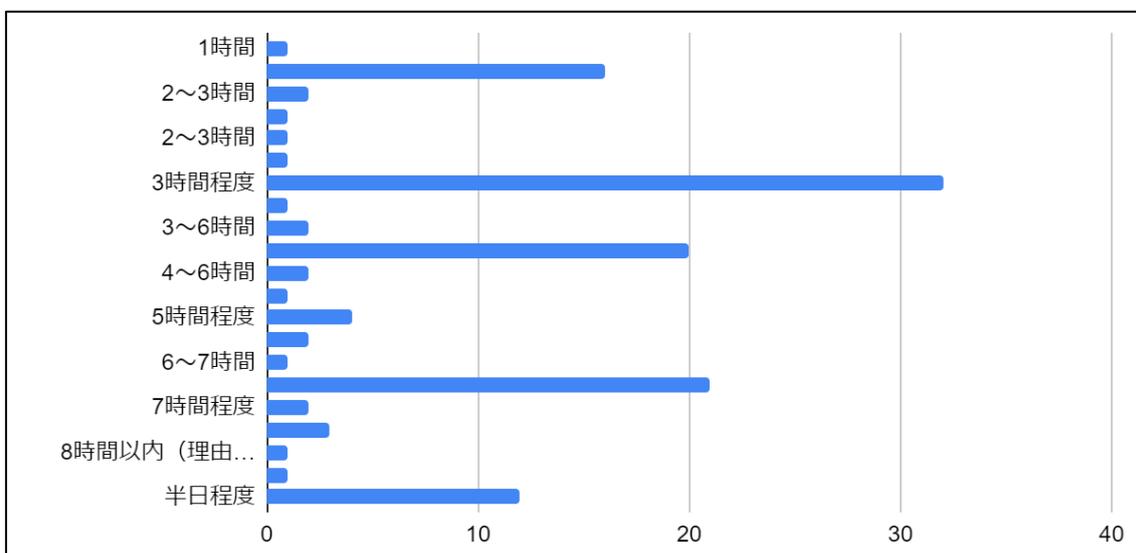
19. 望ましい開講方法について該当するものを選択してください(複数回答可) 146 件の回答



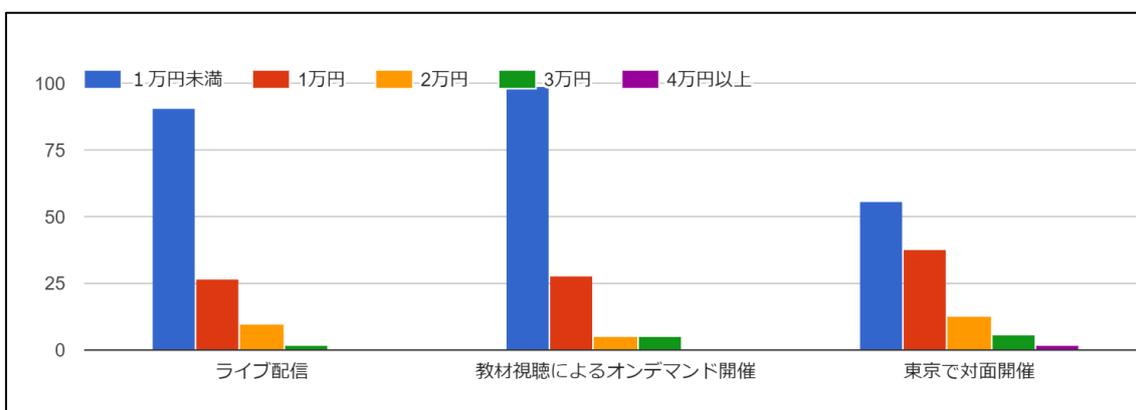
20. 受講者が参加可能な研修時間どの程度だと思いますか。145 件の回答



21. 受講生が1日あたり参加できる研修時間はどれくらいだと思いますか。



22. 次の方法で開催する場合の研修費用(円)(総額)について、適切だと思うものを選択してください。



IV. センター事業における CLoCMiP®レベルⅢ認証申請のための研修一覧

研修プログラム	更新要件	時間数	研修スタイル	開催日
特定分野(助産)における 保健師助産師看護師実習 指導者講習会	後輩指導・ 助産師教育	1.5h	e-learning +オンライン	8/1~9/17
	選択研修	39.5h		
<b>ファーストステージ研修</b>				
ファーストステージ研修/助 産論	選択研修	3.0h	オンライン	6/11~26
ファーストステージ研修/ 助産論演習	選択研修	16.5h	オンライン	7/1~11/12 11/12 中止
ファーストステージ研修/ 助産師教育方法論	選択研修	39.0h	オンライン	8/6~9/24
ファーストステージ研修/ 助産師教育方法演習	選択研修	12.0h	オンライン	中止
ファーストステージ研修/ 助産師教育課程	選択研修	22.5h	オンライン	中止
ファーストステージ研修/ 助産師教育評価	選択研修	13.5h	オンライン	中止
ファーストステージ研修(公 開講座)/ 看護行政の最近の動向- 行政が助産師に期待する 役割と機能:厚生労働省	選択研修	1.5h	オンライン	6/25
ファーストステージ研修(公 開講座)/ 看護行政の最近の動向- 行政が助産師に期待する 役割と機能:文部科学省	選択研修	1.5h	オンライン	7/16
ファーストステージ研修(公 開講座)/ 助産師教育における教授・ 学習活動の成立(学習倫 理を含む)助産師教育にお ける教材と教材研究	選択研修	9.0h	e-learning + オ ンライン	8/6
ファーストステージ研修(公	選択研修	7.5h	オンライン	8/13.14

開講座)/ OSCEの理論と実際				
特別講義 助産師の専門性を高める 教育・評価のあり方	選択研修	1.5h	オンライン	3/12
<b>セカンドステージ研修</b>				
セカンドステージ研修/ 助産師教育課程概論	選択研修	5.0h	オンライン	7/10.9/4.1 1/6.12/6
セカンドステージ研修(公 開講座)/ 助産師教育における将来 ビジョン 2021 持続可能 な助産師教育の実現に向 けて今 必要な事	選択研修	1.5h	オンライン	7/10
<b>e-learning</b>				
e-learning 研修/ 助産師教育における教授・ 学習計画作成の考え方	選択研修	1.5h	e-learning	
e-learning 研修/ 助産師教育における教授・ 学習活動の成立①	選択研修	1.5h	e-learning	
e-learning 研修/ 助産師教育における教授・ 学習活動の成立②	選択研修	1.5h	e-learning	
e-learning 研修/ 助産師教育における教授・ 学習活動の成立③	選択研修	1.5h	e-learning	
e-learning 研修/ 教育課程の基本原則	選択研修	1.5h	e-learning	
e-learning 研修/ 教育課程と法律	選択研修	1.5h	e-learning	
e-learning 研修/ 学校経営と管理	選択研修	1.5h	e-learning	
e-learning 研修/ 助産ケアの理念と助産師 倫理綱領、女性の人権と健 康、助産と生命倫理	選択研修	1.5h	e-learning	

## 2022年度 助産師教育研修研究センター運営委員会

センター長	平澤 美恵子
委員	浅見 恵梨子
	飯塚 幸恵
	岡山 久代
	倉本 孝子
	白石 三恵
	中山 香映
	萩原 直美
	藤井 宏子
	山崎 圭子(五十音順)
担当理事	小川 久貴子